

市立岸和田市民病院改革プラン評価報告書

平成22年3月

岸和田市

市立岸和田市民病院改革プラン評価に係る視点

◎岸和田市と市民病院のあり方

首長と院長の透明度の高い日頃のコミュニケーションから構築される「相互理解」と「相互信頼」がもっとも大切である。

「公共性の確保」と「経済性の発揮」という両立しがたい命題を解決する”カギ”は、行政と病院あるいは首長と院長が自ら果たすべき役割と責任をしっかりと認識し、お互いに、基本的な部分において一致しておくことである。

◎病院運営のあり方

「何を直し、何を守り、何を捨てるか」など、経営のあり方を根本から見つめ直し・やり直すとともに、すべての職員がベクトルをあわせ行動することを当たり前と思う”組織風土”を醸成し、全員参加型の病院運営を確立に努力する。

まず、「市民病院は、今どこにいて、これからどこへ行こうとしているのか。市民病院では、今、何がおこなわれ、何が良くて、何が問題なのか」など、病院運営の実態を住民等に理解してもらうために努力する。

◎当院の役割発揮のあり方4本柱

1. がん医療に対して
地域がん診療拠点病院として、がん医療に対するソフトおよびハード両面での体制の充実を目指す。
婦人科がん診療再開、地域の医療機関と連携した緩和ケアの実施など総合的ながん診療の提供ができるよう努力する。

2. 救急医療に対して
24時間365日の受け入れ体制を維持する。年間約2万人以上の救急診療の活動と、2.5次の救急を担ってきた実績を踏まえ、救急医療体制の強化と充実についてその責務を果たしてゆく。
また、一次、二次、三次救急に対する対応のあり方は、現状を踏まえつつ、広域的な視点を持ち病院間連携も考慮しながら体制の整備を検討し進める。

3. 急性期医療に対して
脳血管障害や、心筋梗塞などに代表される疾病の発生直後および急性増悪時における高度医療の提供体制を維持し充実させる。。

急性期病院としての役割について、患者の方々、地域医療機関に明確に示すとともに、地域連携クリニックルパス等を積極的に活用しながら紹介・逆紹介を推進し、泉州二次医療圏での地域完結型医療の核となれるよう目指す。

なお、急性期医療の質的向上のために、早期に「一般病棟入院基本料7対1看護」施設基準の取得する。

あり方検討委員会提言要旨

市立岸和田市民病院には、市民の暮らしと命を守り安心をもたらすための礎として、市域の中心となり、地域医療の維持・発展させる責任が課されている。地域医療のリーダー的目線を持ち、市及び泉州二次医療圏「全体の最適化」を目指す。

地域医療の「全体の最適化」を使命とする市民病院は、岸和田市にとってかつ市民にとって大切な「公共の財産」であることを強く認識しなければならない。特に、医療資源が枯渇しつつある現在、市民病院を守り、育てていくことは行政、医療関係者、住民の重要な責務であり、それらが一体となった活動が期待される。

4. 教育病院への取り組みに対して
地域医療水準向上と最適化への貢献について努力する。

(1) 臨床研修指定病院としての実績を活かし、臨床研修医への教育の充実を図る。

(2) 地元医療関係機関との連携により、市内医療従事者への教育・研修活動を積極的に展開する。

(3) 市民向け健康教育活動、また「かかりつけ医」の重要性や「コンビニ受診」の抑制への啓発活動を実施してゆく。

☆病院評価のあり方

本来の目的である「公共性の確保」と切り離れた形で、制約条件に過ぎない「経済性の発揮」のみを議論の主軸に置くことは行政の一貫として存在する自治体病院になじまない。

投下資本が、目的として掲げられた医療政策の実現に寄与したのかを評価することに重きをおくべき。

平成21年度市立岸和田市民病院改革プランに関する評価方法と基準

評価方法

プランで設定した経営改善努力の評価とともに、当あり方委員会の勧告にある、市立岸和田市民病院としての目指すべき医療のあり方の実現に向けた取り組みに関しても議論の対象に加え、総合的に評価するものとする。

評価の方法と基準

評価の方法としては、下記の評価基準に基づき、改革プランにて目標とした経営改善計画の達成状況を含めた、当院の果たすべき役割についての達成度合いの判定についてランク付けするものであります。

なお、改革期間二年経過後の評価において総合評価「D」ランクとなった場合は、再度プランを立て直すものであります。

総合評価	評価項目合計点数	活動評価項目6件 経営改善評価項目6件
A 優良	31～36	活動評価最高点18点 経営改善最高点18点 合計36点が最高得点
B 良好	24～30	
C 努力	13～23	
D 計画再考	0～12	

点数区分は、オール2点を基準にA・Bランク、C・Dランクに振り分ける。

基準

活動および経営改善評価

点数	区分	評価の考え方
3	目的どおり順調	委員会答申・改革プランでの目標設定に関して、具体的成果がある。
2	概ね順調	予定した目標・プランに取り組み、一定の成果と認められる。
1	やや停滞	目標・プランに対して、なお一層の努力を要する。
0	目的から遅れている	目標・プランに対して消極的である。

平成21年度 市立岸和田市民病院改革プラン等評価調書

評価点合計による総合評価	B
--------------	---

資料 3

大別番号	目 標	自己評価	委員評価	取り組み項目	実績報告総括	備考
1	急性期医療の充実	3		○DPC対象化及び一般入院基本料7対1施設基準の取得 ○地域連携クリティカルパスの推進	◇DPC対象病院 平成21年4月1日、7対1看護基準取得 平成21年5月1日 ◇がん診療地域連携パスの中心的役割発揮している。 ◇大腿骨、脳卒中地域連携パスの継続推進している。	
2	救急医療の安定的継続	3		○救急の受入継続	◇救急体制の維持及び、二次輪番体制への継続参加と新体制への積極的参加ができています。 ◇泉州北部小児初期救急広域センターとの小児救急における参加と役割分担の中で二次救急について継続できています。	
3	がん医療の充実	3		○ソフト面の充実(がん診療連携拠点病院としての取り組みについて)	◇がん診療連携拠点病院として求められる役割について ◇医療従事者研修・がん登録・がん相談・普及啓発等の各事業について相応の実績がある。	
4	教育病院への取り組み	3		○医療従事者への教育・研究活動 ○市民向け健康教育活動等	◇看護学生への講義や医療従事者への講義についての実績がある。 ◇市民講座等を積極的に行った。	
5	全体の最適化への取り組み	2		○地域連携室の利用の向上 ○大阪府地域再生計画への提案	◇診療科予約件数も増加傾向にある。 ◇逆紹介率の伸び率が一定レベルに達しているため、地域医療支援病院の指標的条件が整っている。 ◇泉州二次医療圏の病院機能の維持向上に対して提案等を行っているが、当院の方針と大阪府地域医療再生計画との調整努力が必要。	
6	市民等への理解を求める努力	2		○広報活動	◇市民講座などの開催、市政だよりを通じた啓発、地域連携ニュースの毎月発行などの実績をつくっている。	
評価点小計		16	0			

7	収益の確保	3		○DPC対象化及び一般入院基本料7対1施設基準の取得に伴う単価の向上 ○医師確保、看護師確保等活動と人件費比率	◇一般入院基本料7対1基準の取得達成 ◇医療機能が評価され、一定の患者単価のグレードが上がり、総じて収益の向上が図れた。 ◇看護師確保の努力により、7対1基準が確保できた。 ◇医師についても常勤職員の一定数を確保している。 ◇人件費比率についても収益とのバランスをとっている。		
8	薬品購買の見直し	2		○薬品購買額の低減	◇購買額削減にむけた事務局、薬剤部の協力体制が図れている。 ◇交渉による購買額の抑制は、効果を出しているが、結果として購買額が計画を上回った。 ◇コンサルタントを通じた、ベンチマーク方式により、一定の価格適正化に向けた効果を出しつつも、計画額を上回った。 ◇医療消耗備品は、鋼製小物類の更新が頻繁におき、計画額を上回った。		
	材料購買の見直し						
9	費用の効率化	2		○委託料の見直し	◇委託料の全般に渡り、削減努力をおこなった。一部は、投資目的どおり増額させた部分もあり、計画額を若干上回ったが、ほぼ計画額の範囲内とした。		
10	賃借料の見直し			○賃借料の見直し			◇賃借料の当初の計画どおりとし、計画額の範囲内とした。
11	その他経費の見直し			○その他経費の見直し			◇評価対象とした勘定科目で、光熱水費など、節減に成功した部分があるものの、事務用品などの節減にむけた検討の余地がある。
12	医療水準の維持と向上	3		○計画的投資	◇投資については、計画額の範囲内としている。		
評価点小計		14	0				

合計		30	0			
----	--	----	---	--	--	--

市立岸和田市民病院改革プラン評価に係る資料

平成22年3月

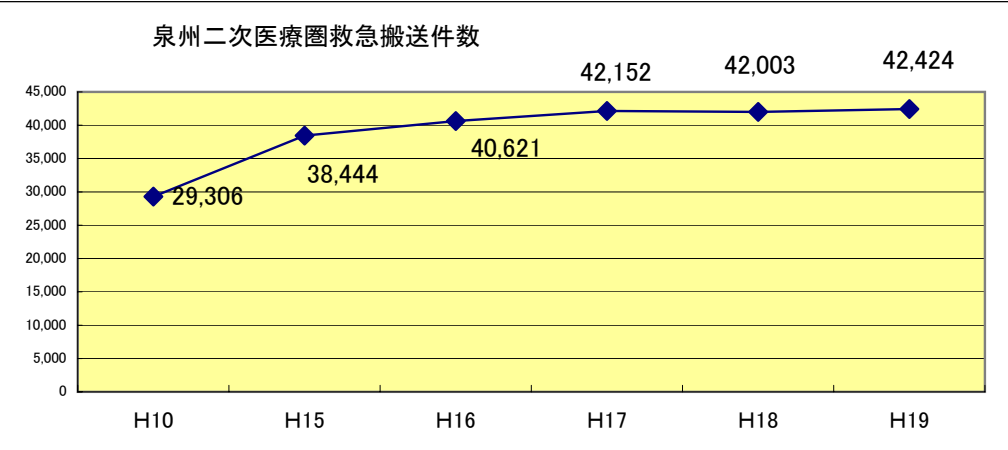
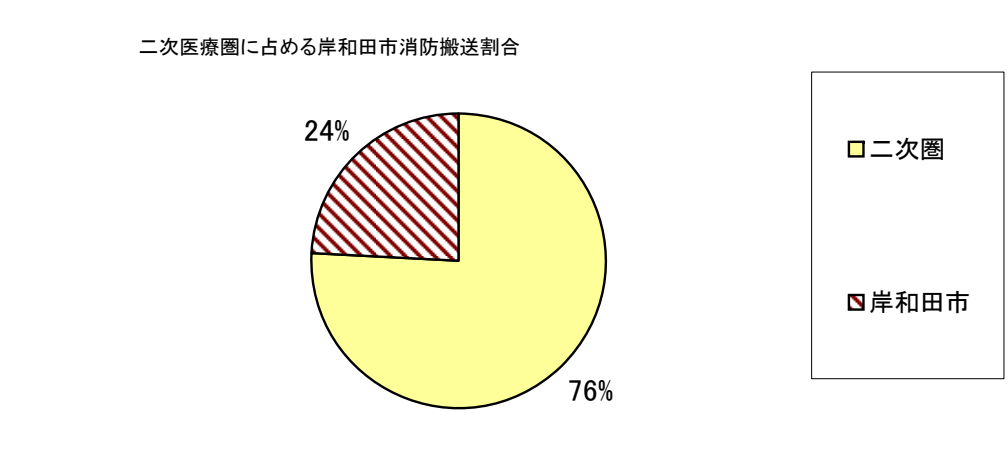
平成21年度目的として掲げた役割の実現へ向けた活動にかかる個別取り組み調書

役割	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ	備考																				
急性期医療の充実	DPC対象化及び7対1看護の取得	<p>○ DPC対象病院</p> <p>DPC対象病院としては、平成19～20年度の準備期間を経て、平成21年4月より対象となった。</p> <p>○ 一般入院基本料7対1基準の取得</p> <p>当院では、今後の急性期医療の質の向上と、施設基準取得による収益メリットを活かすべく、平成20年度に職員定数条例を改正した。これにより、看護師定数の増加が認められたため、早期に7対1施設基準の取得に向け看護師の増員を図ったものである。</p> <p>平成19年度末には、同7対1基準を背景とした看護師の大病院志向等による流出に見舞われたものの、看護学校訪問やPR活動とともに、給与、福利厚生などの待遇改善をはかり、一定の歯止めをかけ、徐々に看護師数を増員し、臨時雇看護師の活用も行いながら、平成21年5月から7対1施設基準の達成した。</p>	<p>○DPCによる医療機関係数値 1.1433</p> <p>機能評価係数 0.1075 一般病棟入院基本料7対1 臨床研修病院入院診療加算 診療録管理体制加算 医師事務補助作業補助体制加算100対1 医療安全対策加算</p> <p>調整係数 1.0358</p> <p>○その他急性期に係る指標</p> <p>◇平均在院日数 H20年度.1月累計値 13.6日 ↓ H21年度.1月累計値 13.4日</p> <p>◇集中治療室稼働状況 H20年度.1月累計値 77.3% ↓ H21年度.1月累計値 77.2%</p> <p>◇救急搬送件数 H20年度.1月累計値 3,859件 ↓ H21年度.1月累計値 4,058件</p> <p>◇申込別手術件数 H20.1月累計 緊急手術 予定手術 予定外手術 計 203 2,058 380 2,641 ↓ H21.1月累計 緊急手術 予定手術 予定外手術 計 230 1,956 320 2,506</p>	<p>○取り巻く外部環境と当院の方針について</p> <p>病院の医療機能の分化は、従来の一般病床、療養病床等から高度急性期、一般急性期、亜急性期・回復期リハビリ、慢性期へと目指されており、一般急性期病院に求められるものは、継続的に重症の新規入院患者の確保、24時間の救急対応と受け入れ実績、看護配置基準10対1以上、DPC対応といったものとなっている。当院は、一般急性期病院として、市及び泉州二次医療圏の中核的病院であることを目指しているところである。</p> <p>○DPCとは</p> <p>診断に基づいて、傷病名、年齢、意識障害レベル、手術・処置の有無、副傷病の有無など一連の治療行為を組み合わせた分類方法であり、医療の質の向上と情報開示、医療を標準化・透明化させることにより、急性期病院に今後求められていく医療費の適正化と質の向上という相対立する課題に対して取り組むための手段とされている。</p> <p>○7対1基準とは</p> <p>平成18年度診療報酬改定により導入された基準で、患者に対する看護師の配置を各病棟ごとに患者7名に対し1名の割合で実質配置する基準であり、急性期入院医療の実態に即した看護配置を適切に評価する目的とされている。</p>																				
	地域連携クリティカルパスの推進	<p>○ がん診療地域連携クリティカルパスについて</p> <p>5大がんのうち、肺・胃・大腸・乳がんの4つのがんと前立腺がんの5つのパスについて病状が比較的安定している病期・病態の患者を対象としている。</p> <p>前立腺がん以外は、手術後定期検診ないしは術後補助化学療法のパスが作成された。前立腺がんは、検診・診断パス(かかりつけ医→病院)となっている。</p> <p>上記パスは、大阪府がん診療連絡協議会により、平成21年4月から試行された。</p> <p>泉州二次医療圏については、当院、府中、市立泉佐野の3病院が中心となり、方針の検討、泉州地域の各医師会代表を集めた全体会議の後、平成22年3月11日に、がん診療連携クリティカルパス検討小委員会第1回会議を行い、正式に活動を始めたところである。当委員会での事務局は市立岸和田市民病院となっている。</p>	<p>○平成22年3月11日現在 参加施設数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>基幹病院</th> <th>連携施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肺</td> <td>9</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>胃</td> <td>14</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>大腸</td> <td>14</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>乳房</td> <td>11</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>前立腺</td> <td>5</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>肝臓</td> <td>7</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table> <p>△基幹病院は、北部5、中部3、南部6病院 の14病院 △連携病院等は、岸和田市39 貝塚市9 和泉市14 高石市6 泉大津市15 忠岡町4 泉佐野市11 熊取町4 阪南市10 泉南市4 田尻町3 の各医師会の 119施設が参加 (内基幹病院含)</p> <p>○小委員会立ち上げまでの経過</p> <p>平成21年3月(平成20年度同会設置) 平成21年12月(基幹病院合同会議) 平成21年3月(第1回パス説明会) 平成22年3月(小委員会正式立ち上げ) 平成21年6月(府中・泉佐野病院との協議) 平成21年7月(肝がんパスの完成) 平成21年8月(肝がんパスの医師会説明会順次開催)</p>		基幹病院	連携施設	肺	9	62	胃	14	80	大腸	14	76	乳房	11	63	前立腺	5	36	肝臓	7	38
	基幹病院	連携施設																						
肺	9	62																						
胃	14	80																						
大腸	14	76																						
乳房	11	63																						
前立腺	5	36																						
肝臓	7	38																						

平成21年度目的として掲げた役割の実現へ向けた活動にかかる個別取り組み調書

役割	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ	備考																												
急性期医療の充実	地域連携クリティカルパスの推進	<p>○ 泉州圏域大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパスについて</p> <p>平成18年度よりパスを作成運用開始 急性期5病院、連携病院8病院が参加（うち、急性期病院として参加） 地域連携パス会議年3回以上 平成21年7月 パス運用報告及びパスの改定等を議論 平成21年11月</p> <p>○ 泉州圏域脳卒中地域連携クリティカルパスについて</p> <p>和泉・岸和田・泉佐野各市の回復期リハビリテーション病棟を有する病院による部会を軸とし、圏域活動がなされている。その中で「泉州地域リハ連絡会議」に急性期部門として参加、「泉州圏域脳卒中地域連携パス－泉州版－」が平成20年3月に完成し、5月から運用されている。</p>	<p>○パス適用数</p> <table border="1" data-bbox="1240 344 1685 464"> <thead> <tr> <th>1月累計値比較</th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◇大腿骨頸部骨折</td> <td>52</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>◇脳卒中</td> <td>67</td> <td>83</td> </tr> </tbody> </table> <p>○岸和田保健所管内計画管理病院として参加</p> <table border="1" data-bbox="1240 741 1798 940"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">計画管理病院</th> </tr> <tr> <th>急性期施設</th> <th>回復期施設</th> <th>医療療養型施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>和泉保健所管内</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>岸和田保健所管内</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>泉佐野保健所管内</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	1月累計値比較	平成20年度	平成21年度	◇大腿骨頸部骨折	52	34	◇脳卒中	67	83		計画管理病院			急性期施設	回復期施設	医療療養型施設	和泉保健所管内	3	2	3	岸和田保健所管内	3	6	6	泉佐野保健所管内	3	4	5	
1月累計値比較	平成20年度	平成21年度																														
◇大腿骨頸部骨折	52	34																														
◇脳卒中	67	83																														
	計画管理病院																															
	急性期施設	回復期施設	医療療養型施設																													
和泉保健所管内	3	2	3																													
岸和田保健所管内	3	6	6																													
泉佐野保健所管内	3	4	5																													

平成21年度目的として掲げた役割の実現へ向けた活動にかかる個別取り組み調書

役割	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ	備考																																																		
救急医療の安定的継続	救急の受入継続	<p>○ 救急の受け入れの継続（泉州二次医療圏輪番制度）</p> <p>救急診療科を標榜し、24時間365日体制を継続。 平成12年度から開始された、泉州二次医療圏救急輪番及び小児支援事業の両事業に参加継続中である。 なお、同事業参加 19病院で平成21年度両事業に対応しているのは、当院を含め 泉大津市立、市立泉佐野の3病院である。</p> <p>また、平成20年度6月の泉州保健医療協議会医療部会救急医療体制検討小委員会での緊急対策に参加、中心的二次病院として新体制に参加している。</p> <p>さらに、大阪府医師会の要請のもと、眼科、耳鼻咽喉科の救急対応も可能な範囲で協力している。</p> <p>市立岸和田市民病院は全体制に参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内科(内因性疾患)全般救急医療体制 中心的二次病院 ○吐下血(内視鏡的止血)対応可能医療機関 診療時間内・診療時間外 恒常的対応 ○急性腹症の緊急手術可能医療機関 診療時間内・診療時間外 恒常的対応 ○脳卒中对応可能医療機関 診療時間内・診療時間外 恒常的対応 ○循環器救急疾患対応可能医療機関 心臓カテーテル検査 診療時間内・診療時間外 恒常的対応 緊急手術 診療時間内・診療時間外 恒常的対応 ○診療時間外に呼吸器救急疾患対応可能医療機関 恒常的対応 ○人工呼吸管理を必要とする患者の受け入れ可能医療機関 診療時間内・診療時間外 恒常的対応 	<p>○泉州二次医療圏における救急搬送の状況</p> <p>平成21年9月30日 泉州保健医療協議会医療部会救急医療体制検討小委員会 報告資料より</p>  <table border="1"> <caption>泉州二次医療圏救急搬送件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>搬送件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H10</td> <td>29,306</td> </tr> <tr> <td>H15</td> <td>38,444</td> </tr> <tr> <td>H16</td> <td>40,621</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>42,152</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>42,003</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>42,424</td> </tr> </tbody> </table>  <table border="1"> <caption>二次医療圏に占める岸和田市消防搬送割合</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二次圏</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>岸和田市</td> <td>24%</td> </tr> </tbody> </table>  <table border="1"> <caption>岸和田救急受入割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>当院</th> <th>当院以外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H17</td> <td>4,917</td> <td>4,961</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>5,254</td> <td>4,782</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>5,239</td> <td>4,973</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>4,591</td> <td>4,688</td> </tr> </tbody> </table>  <table border="1"> <caption>搬送患者市内・市外内訳</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>市外</th> <th>市内</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H17</td> <td>1,386</td> <td>3,531</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>1,680</td> <td>3,574</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>1,591</td> <td>3,648</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>986</td> <td>3,605</td> </tr> </tbody> </table>	年度	搬送件数	H10	29,306	H15	38,444	H16	40,621	H17	42,152	H18	42,003	H19	42,424	地域	割合	二次圏	76%	岸和田市	24%	年度	当院	当院以外	H17	4,917	4,961	H18	5,254	4,782	H19	5,239	4,973	H20	4,591	4,688	年度	市外	市内	H17	1,386	3,531	H18	1,680	3,574	H19	1,591	3,648	H20	986	3,605	<p>○泉州二次医療圏救急輪番、小児支援事業について</p> <p>休日夜間急病診療所等の初期救急医療施設及び救急患者の搬送機関との円滑な連携体制のもとに、休日又は夜間における入院治療を必要とする重症救急患者の医療を岸和田市、和泉市、泉大津市、泉佐野市、貝塚市、泉南市、高石市、阪南市、熊取町、田尻町、忠岡町、岬町の泉州医療圏(8市4町)内の病院群が共同連携して確保する目的で平成12年4月1日に各市町の覚書が締結され運営されている。</p> <p>○救急新体制への参加について</p> <p>救急搬送患者の増加と救急告示医療機関の減少という近年の傾向を憂慮し平成20年6月に泉州保健医療協議会医療部会救急医療体制検討小委員会が設置され、緊急対策として、泉州地域における現状の医療資源を最大限有効に活用することによって救急需要の現状に適切に対応できる仕組み・ルールづくりが検討された。</p> <p>特に吐下血、脳卒中といった単独病院で恒常的な受入体制の確保が困難となる、特殊性、難易度の高い特定の疾病について対応可能医療機関の輪番による最終受け入れ当番制が導入され、平成20年11月から試行実施、平成21年4月から本格実施となった。</p> <p>また、救急受け入れ機関の裾野を広げて、特定の医療機関に過度の負荷がかからないようにし、確実に重症救急患者を受け入れられる体制を確保するため、内科(内因性疾患)全般に対する救急診療体制が新ルールで平成21年4月から試行され、10月から本格運用されている。</p>
		年度	搬送件数																																																			
H10	29,306																																																					
H15	38,444																																																					
H16	40,621																																																					
H17	42,152																																																					
H18	42,003																																																					
H19	42,424																																																					
地域	割合																																																					
二次圏	76%																																																					
岸和田市	24%																																																					
年度	当院	当院以外																																																				
H17	4,917	4,961																																																				
H18	5,254	4,782																																																				
H19	5,239	4,973																																																				
H20	4,591	4,688																																																				
年度	市外	市内																																																				
H17	1,386	3,531																																																				
H18	1,680	3,574																																																				
H19	1,591	3,648																																																				
H20	986	3,605																																																				

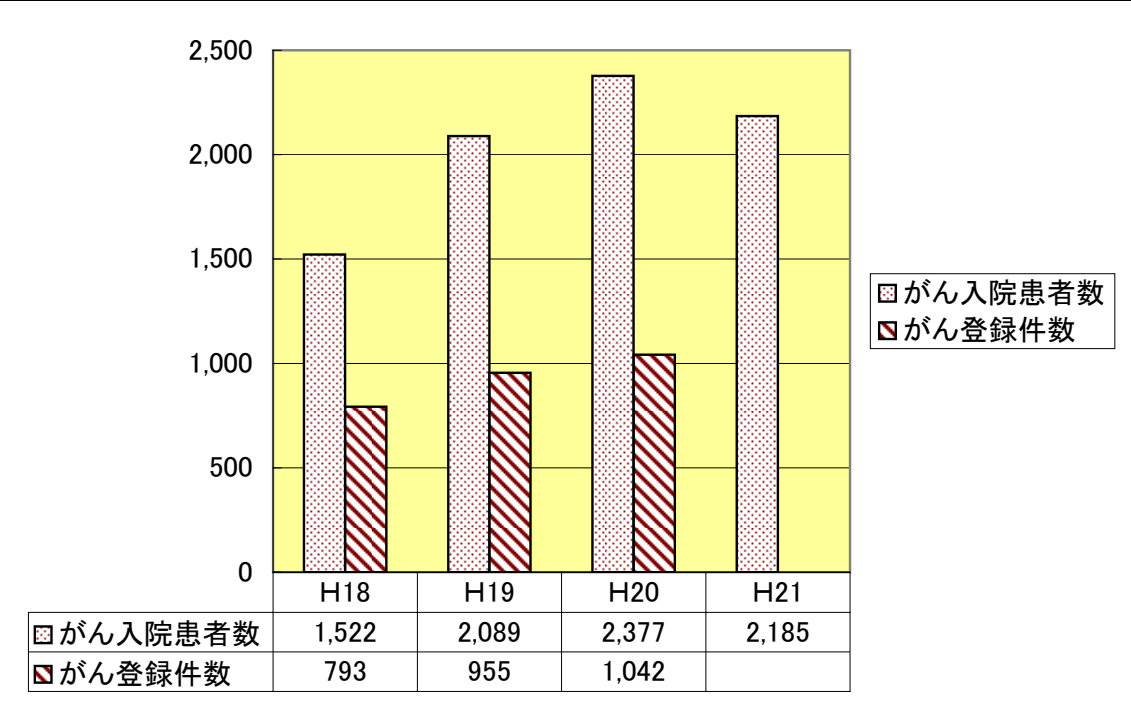
平成21年度目的として掲げた役割の実現へ向けた活動にかかる個別取り組み調書

役割	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ	備考																																														
救急医療の 安定的継続	救急の受 入継続	<p>○ 救急の受け入れの継続（泉州二次医療圏輪番制度） （小児支援事業）</p> <p>小児二次救急については、毎週木曜日の当番病院として参加継続をおこなっている。</p> <p>救急輪番小児支援事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成20年度</th> <th>日数</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市立岸和田市民病院</td> <td>80</td> <td>144</td> <td>3,076</td> <td>3,220</td> </tr> </tbody> </table>	平成20年度	日数	入院	外来	合計	市立岸和田市民病院	80	144	3,076	3,220	<p>○泉州北部小児初期救急広域センターと二次輪番小児支援事業の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成17年度</th> <th>平成18年度</th> <th>平成19年度</th> <th>平成20年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◆ 小児支援事業受入件数</td> <td>26,480</td> <td>21,884</td> <td>14,051</td> <td>12,814</td> </tr> <tr> <td>■ 小児初期広域受入件数</td> <td></td> <td>7,197</td> <td>13,713</td> <td>15,709</td> </tr> </tbody> </table>		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	◆ 小児支援事業受入件数	26,480	21,884	14,051	12,814	■ 小児初期広域受入件数		7,197	13,713	15,709	<p>○泉州北部小児初期救急広域センターとの役割分担</p> <p>小児初期救急については、平成18年度に、高石市和泉市、泉大津市、岸和田市、貝塚市、忠岡町において、泉州北部小児初期救急医療協議会を設置し、泉州北部小児初期救急広域センター（岸和田市荒木町）で実施されることとなったため、休日・夜間の初期患者の分散が図られたところである。</p> <p>○土曜日：準夜 午後5:00～午後10:00 ○日曜・祝日・年末年始（12月30日～1月4日） 午前 9:00～午後12:00 午後 1:00～午後 4:00 午後 5:00～午後10:00</p>																					
		平成20年度	日数	入院	外来	合計																																												
市立岸和田市民病院	80	144	3,076	3,220																																														
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度																																														
◆ 小児支援事業受入件数	26,480	21,884	14,051	12,814																																														
■ 小児初期広域受入件数		7,197	13,713	15,709																																														
<p>○ 当院の救急体制 《22.3.4(木)の体制》 （看護は3勤務帯全て）</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>医師当直</td> <td>内科・外科・救急・ICU等</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>医師当直</td> <td>小児科（準夜・深夜）</td> <td>2名当番日のみ</td> </tr> <tr> <td>医師当直</td> <td>耳鼻科1・眼科1</td> <td>0名当番日のみ</td> </tr> <tr> <td>医師宅直</td> <td>循環器・心臓等12診療科</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>看護師3勤務帯</td> <td>救急センター（病棟2・外来3）×3</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>看護師宅直</td> <td>救急放射線科1・オペ室3</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>医療技術当直</td> <td>検査・薬剤・放射線・ME</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>当直・宅直計</td> <td></td> <td>39名</td> </tr> </tbody> </table> <p>体制の中に、耳鼻咽喉科、眼科の参加はあるが、3月の当番日は3月12日（金）、3月26日（金）（耳鼻科のみ）となっている。</p>	医師当直	内科・外科・救急・ICU等	5名	医師当直	小児科（準夜・深夜）	2名当番日のみ	医師当直	耳鼻科1・眼科1	0名当番日のみ	医師宅直	循環器・心臓等12診療科	9名	看護師3勤務帯	救急センター（病棟2・外来3）×3	15名	看護師宅直	救急放射線科1・オペ室3	4名	医療技術当直	検査・薬剤・放射線・ME	4名	当直・宅直計		39名	<p>○ 救急受入件数の分析</p> <p>救急搬送と自己来院 1月累計比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ 救急搬送</td> <td>4,283</td> <td>3,859</td> <td>4,058</td> </tr> <tr> <td>□ 自己来院他</td> <td>14,128</td> <td>11,740</td> <td>12,369</td> </tr> </tbody> </table> <p>即日入院の割合 1月累計比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ 即日入院</td> <td>434</td> <td>596</td> <td>481</td> </tr> <tr> <td>□ 帰宅他</td> <td>3,849</td> <td>3,263</td> <td>3,577</td> </tr> </tbody> </table>		H19	H20	H21	■ 救急搬送	4,283	3,859	4,058	□ 自己来院他	14,128	11,740	12,369		H19	H20	H21	■ 即日入院	434	596	481	□ 帰宅他	3,849	3,263	3,577	<p>○ 救急医療における当院の状況と課題</p> <p>泉州保健医療協議会医療部会救急医療体制検討小委員会報告の指摘にもあるように救急搬送患者数に占める軽症患者数の割合が、平成19年度67.3%・全国51.7%・大阪府64.7%と多いのが泉州地域の特徴とされている。</p> <p>（平成21年9月30日 泉州保健医療協議会医療部会救急医療体制検討小委員会報告資料より）</p> <p>当院でも救急受入件数における搬送数と自己来院数では、自己来院数が75%程度と高く、搬送による受け入れの中でも、即日入院数は10%前半台であり、軽症に分類される患者数が比較的多いように思われる。</p>
医師当直	内科・外科・救急・ICU等	5名																																																
医師当直	小児科（準夜・深夜）	2名当番日のみ																																																
医師当直	耳鼻科1・眼科1	0名当番日のみ																																																
医師宅直	循環器・心臓等12診療科	9名																																																
看護師3勤務帯	救急センター（病棟2・外来3）×3	15名																																																
看護師宅直	救急放射線科1・オペ室3	4名																																																
医療技術当直	検査・薬剤・放射線・ME	4名																																																
当直・宅直計		39名																																																
	H19	H20	H21																																															
■ 救急搬送	4,283	3,859	4,058																																															
□ 自己来院他	14,128	11,740	12,369																																															
	H19	H20	H21																																															
■ 即日入院	434	596	481																																															
□ 帰宅他	3,849	3,263	3,577																																															

平成21年度目的として掲げた役割の実現へ向けた活動にかかる個別取り組み調書

役割	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ	備考																																																									
がん医療の充実	ソフト面の充実	<p>○がん診療連携拠点病院としての活動</p> <p>がん診療連携拠点病院の厚生労働省指定更新を平成21年度内に行うとともに、拠点病院としての役割発揮について各種の事業を展開した。</p> <p>1. がん医療従事者研修事業 今年度から、二次医療圏内外を含めた医療従事者への緩和ケアに関する講習をおこなった。 当院では、医師2名が研修講師を務めている。</p> <p>その他、毎月、がん看護事例研修、腫瘍内科医による院内セミナーを行っている。</p>	<p>○泉州緩和ケア研修会の開催 平成21年7月11日(土)～12日(日)開催</p> <p>主催:市立岸和田市民病院 後援:大阪府医師会、岸和田市医師会、貝塚市医師会、泉大津市医師会、泉佐野市医師会、和泉市医師会、高石市医師会 研修会協力:高槻赤十字病院他 8病院 研修修了者:医療圏内外医療従事者 24名 市立岸和田市民病院医療従事者 7名</p> <p>次回予定 平成22年4月24日(土)～25日(日)開催予定</p> <p>○その他院内従事者研修</p> <table border="0" data-bbox="1240 905 2119 1255"> <tr> <td colspan="2">がん看護キャリア研修 (平成21年度状況)</td> <td>対象:院内看護師</td> </tr> <tr> <td>がん化学療法「基本編」第1回</td> <td>5月16日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>がん看護研修基礎編第1回</td> <td>6月13日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リンパ浮腫のケア</td> <td>6月27日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>がん化学療法「基本編」第2回</td> <td>7月4日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>がん看護研修基礎編第2回</td> <td>8月1日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>がん化学療法「基本編」第3回</td> <td>9月26日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>がん看護研修応用編第1回</td> <td>11月14日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>がん看護研修応用編第2回</td> <td>12月12日</td> <td></td> </tr> </table> <table border="0" data-bbox="1240 1304 2119 1688"> <tr> <td colspan="2">腫瘍内科医によるランチョンセミナー (平成21年度状況)</td> <td>対象:院内従事者</td> </tr> <tr> <td>研修医に聞いてもらいたい腫瘍内科Drの本音</td> <td>5月28日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>抗がん剤の血管外漏出への対応</td> <td>6月19日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ポート管理について</td> <td>8月13日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予後予測のコツとバットニュースの伝え方</td> <td>9月18日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>消化器症状の緩和のコツとポイント</td> <td>10月29日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予後予測のポイント</td> <td>11月20日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>呼吸困難感への対応</td> <td>12月17日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>がんに伴うEmergencyへの対応</td> <td>2月18日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>抗がん剤治療に伴うEmergencyへの対応</td> <td>3月12日</td> <td></td> </tr> </table>	がん看護キャリア研修 (平成21年度状況)		対象:院内看護師	がん化学療法「基本編」第1回	5月16日		がん看護研修基礎編第1回	6月13日		リンパ浮腫のケア	6月27日		がん化学療法「基本編」第2回	7月4日		がん看護研修基礎編第2回	8月1日		がん化学療法「基本編」第3回	9月26日		がん看護研修応用編第1回	11月14日		がん看護研修応用編第2回	12月12日		腫瘍内科医によるランチョンセミナー (平成21年度状況)		対象:院内従事者	研修医に聞いてもらいたい腫瘍内科Drの本音	5月28日		抗がん剤の血管外漏出への対応	6月19日		ポート管理について	8月13日		予後予測のコツとバットニュースの伝え方	9月18日		消化器症状の緩和のコツとポイント	10月29日		予後予測のポイント	11月20日		呼吸困難感への対応	12月17日		がんに伴うEmergencyへの対応	2月18日		抗がん剤治療に伴うEmergencyへの対応	3月12日		<p>○がん対策について</p> <p>がん対策基本法(平成18年法律第98号)が施行され国によるがん対策基本計画が平成19年度から平成23年度までの5カ年間を対象に策定された。</p> <p>この基本的計画は、都道府県がん対策推進計画の基本となっており、計画では「がん患者を含めた国民の視点に立ったがん対策の実施」と「重点的に取り組むべき課題を定めた総合的かつ計画的ながん対策の実施」が、今後のがん対策の必要不可欠な視点及び考え方として示されるとともに、全体目標として、「がんによる死亡患者の減少」と「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の向上」が設定されたものである。</p> <p>これを受けて、大阪府がん対策基本計画が平成20年8月に、平成20年度から平成24年度までの5カ年計画が策定されている。府の計画では、国の計画を受け、1. がん予防の推進、2. がんの早期発見、3. がん医療の充実が柱とされているところである。</p>
		がん看護キャリア研修 (平成21年度状況)		対象:院内看護師																																																									
がん化学療法「基本編」第1回	5月16日																																																												
がん看護研修基礎編第1回	6月13日																																																												
リンパ浮腫のケア	6月27日																																																												
がん化学療法「基本編」第2回	7月4日																																																												
がん看護研修基礎編第2回	8月1日																																																												
がん化学療法「基本編」第3回	9月26日																																																												
がん看護研修応用編第1回	11月14日																																																												
がん看護研修応用編第2回	12月12日																																																												
腫瘍内科医によるランチョンセミナー (平成21年度状況)		対象:院内従事者																																																											
研修医に聞いてもらいたい腫瘍内科Drの本音	5月28日																																																												
抗がん剤の血管外漏出への対応	6月19日																																																												
ポート管理について	8月13日																																																												
予後予測のコツとバットニュースの伝え方	9月18日																																																												
消化器症状の緩和のコツとポイント	10月29日																																																												
予後予測のポイント	11月20日																																																												
呼吸困難感への対応	12月17日																																																												
がんに伴うEmergencyへの対応	2月18日																																																												
抗がん剤治療に伴うEmergencyへの対応	3月12日																																																												

平成21年度目的として掲げた役割の実現へ向けた活動にかかる個別取り組み調書

役割	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ	備考															
がん医療の充実	ソフト面の充実	<p>2. 院内がん登録推進事業</p> <p>がん対策推進基本計画が目指す、全体目標に沿ってがんの早期発見、がんの予防を推進するため、当院で診断・治療をおこなった全てのがん患者についてその診断から治療、および予後に関する情報を登録し、登録資料のうち、大阪府悪性新生物患者登録事業において要請される情報のみを抽出・編集・届出を行っている。なお、登録においては、診療録管理士資格保持者が行うものとしている。また、運用については、要項のほか、院内がん診療推進委員会において管理している。</p> <p>当院では、院内がん登録指導者研修修了者による登録をおこなっており、件数実績は伸びている。</p>	<p>○がん入院患者数とがん登録件数の推移 1月～12月暦年比較 単位:人・件</p>  <table border="1" data-bbox="1202 947 1973 1024"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■がん入院患者数</td> <td>1,522</td> <td>2,089</td> <td>2,377</td> <td>2,185</td> </tr> <tr> <td>▨がん登録件数</td> <td>793</td> <td>955</td> <td>1,042</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	■がん入院患者数	1,522	2,089	2,377	2,185	▨がん登録件数	793	955	1,042		<p>○がん診療連携拠点病院について</p> <p>がん対策基本法、同対策基本計画に則り、平成20年3月1日に厚生労働省健康局長から各都道府県知事あてに「がん診療連携拠点病院の整備について」及び「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」が示されている。今後のがん診療連携拠点病院の指定には下記の要件が評価対象となるとされている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.(1) 1.集学的、標準的治療等の提供体制 2.化学療法の実施体制 3.緩和ケアの実施体制 4.病連携・病診連携の協力体制 5.セカンドオピニオンの提示体制 (2) 1.専門的な知識及び技能を有する医師の配置 2.同科メディカルスタッフの配置 3.拠点病院の長による医師の実績等の定期評価と専門性を十分発揮できる体制の整備等 (3) 1.年間入院がん延患者数1200人以上 2.専門的ながん医療を提供するための治療機器・治療室等設置 3.敷地内禁煙等 2.(1) 二次医療圏において、がん医療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修を毎年定期的実施するなど 上記ほか原則として、二次医療圏において、がん医療に携わる医師等を対象とした早期診断及び緩和ケア等に関する研修の実施 3.(1) 相談支援センターの設置及び相談を受けられる旨の掲示、相談支援センターについて積極的な広報 国立がん対策情報センターによる研修修了者を専従及び専任の相談支援者を1名以上配置 (2) 専任の院内がん登録の実務を担う者を1名以上配置し、毎年集計結果等をがん対策情報センターに情報提供するなど
	H18	H19	H20	H21															
■がん入院患者数	1,522	2,089	2,377	2,185															
▨がん登録件数	793	955	1,042																

平成21年度目的として掲げた役割の実現へ向けた活動にかかる個別取り組み調書

役割	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ	備考																																						
がん医療の充実	ソフト面の充実	<p>3. がん相談事業</p> <p>平成18年7月10日から当院地域連携室内に設置され、がんに関する、病気、治療、薬剤、検査、介護、検診についての疑問・悩みについての相談業務をおこなっている。</p> <p>なお、診療内容に関するセカンドオピニオンの取次ぎもおこなう。</p> <p>受付時間 10:00～15:00(土日祝除く) 方法(来院・電話・e-mail・その他)</p> <p>がん相談室についての体制は以下のとおり</p> <table border="1" data-bbox="549 856 890 1018"> <tr><td>医師</td><td>1</td><td>名</td></tr> <tr><td>相談員</td><td>5</td><td>名</td></tr> <tr><td>看護師</td><td>5</td><td>名</td></tr> <tr><td>事務員</td><td>1</td><td>名</td></tr> </table> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(業務) がん看護・総合相談 お薬相談 栄養相談 検査相談</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(受付/管理) セカンドオピニオン</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(協働/連携) 緩和ケア外来 化学療法センター 放射線治療</div> </div>	医師	1	名	相談員	5	名	看護師	5	名	事務員	1	名	<p>○がん相談室の相談件数</p> <p>がん相談件数 4月～2月まで 2,517 件</p> <p>がん相談 平成21年度上期状況</p> <p>相談形式 …… 面談形式が49%、電話形式が45%で大半を占めている。</p> <p>利用回数 …… 初めての相談は31%、2回目以上の相談が58%</p> <p>相談者 …… 医療従事者、患者の家族、患者本人の順番での頻度となっている。</p> <p>年齢 …… 70歳代が最も多く、次いで60歳代であり、患者年齢の過半数を占める。</p> <p>部位種類 …… 肺が最も多く、骨、肝臓、大腸、眼・脳・神経、リンパ血液、乳腺、胃等と全般的に相談が入っている。</p> <p>○相談室の活動実績</p> <p>◇泉州二次医療圏がん診療連携協議会がん相談部会との連携 8月12日、12月25日、3月25日 当院で開催</p> <p>◇大阪府がん診療連携協議会支援センター一部会との連携 6月20日、2月13日 大阪府成人病センターで開催、事例発表参加</p> <p>◇患者団体との連携</p> <table border="0" data-bbox="1261 1501 1944 1606"> <tr><td>△大阪がん医療の向上を目指す会</td><td>2月26日会合</td></tr> <tr><td>△あけぼの大阪</td><td>8月23日会合</td></tr> <tr><td>△日本オストミー協会 関西支部 友起会</td><td>8月25日会合</td></tr> </table> <p>◇患者図書室の運営</p> <p>△病院ボランティアを中心に運営</p>	△大阪がん医療の向上を目指す会	2月26日会合	△あけぼの大阪	8月23日会合	△日本オストミー協会 関西支部 友起会	8月25日会合	<p>○がん相談室行動計画</p> <p>がん相談室では、相談業務と平行し、がん拠点病院、相談室の広報、地域医療機関情報の収集、エビデンス診療情報の管理、各種アンケート調査、医師会・在宅療養支援診療所への広報等、市民向け啓発広報などの一般的広報活動から、疾患別特化的・特異的治療機関への送致、疾患別連携クリティカルパス、緩和ケアクリティカルパスの支援など、また、連携症例の検討などの行動計画持ち、活動をおこなっている。</p> <p>がん相談室行動計画 概要図</p> <table border="1" data-bbox="2246 829 2867 1365"> <thead> <tr> <th></th> <th>一次連携</th> <th>二次連携</th> <th>三次連携</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型</td> <td>拠点病院・がん相談室の広報・地域医療機関の連携収集・エビデンス診療情報管理・各種アンケート・予防啓発、医師会・在宅療養支援診療所等広報等</td> <td>人的交流を含む地域医療資源収集、一般がん相談、グループワーク患者サロン等、患者図書室設置、代書・補完医療の情報収集・管理・提供、患者会との交流</td> <td>セカンドオピニオン、インフォメーションリソースサービス、個別がん相談</td> </tr> <tr> <td>広域</td> <td>拠点病院・がん相談室の広報・地域医療機関の連携収集・エビデンス診療情報管理・各種アンケート・予防啓発、医師会・在宅療養支援診療所等広報等</td> <td>上記を含み、各自自治体域で中心となる医療機関との連携・中心的医療機関を結ぶネットワークの構築</td> <td>上記を含み、各自自治体で中心となる医療機関との連携、各自自治体ネットワークを利用した紹介・逆紹介</td> </tr> <tr> <td>疾患別</td> <td>疾患別広報・研修会の開催</td> <td>疾患別特化的・特異的治療機関の情報提供</td> <td>疾患別特化的・特異的治療機関への送致、疾患別連携クリティカルパス、緩和ケアクリティカルパス</td> </tr> <tr> <td>職種別</td> <td>職種別研修の開催(講演会など)</td> <td>各職種の人的交流・各医療機関緩和ケアチームの横連携・情報交換</td> <td>連携症例の検討</td> </tr> </tbody> </table>		一次連携	二次連携	三次連携	地域密着型	拠点病院・がん相談室の広報・地域医療機関の連携収集・エビデンス診療情報管理・各種アンケート・予防啓発、医師会・在宅療養支援診療所等広報等	人的交流を含む地域医療資源収集、一般がん相談、グループワーク患者サロン等、患者図書室設置、代書・補完医療の情報収集・管理・提供、患者会との交流	セカンドオピニオン、インフォメーションリソースサービス、個別がん相談	広域	拠点病院・がん相談室の広報・地域医療機関の連携収集・エビデンス診療情報管理・各種アンケート・予防啓発、医師会・在宅療養支援診療所等広報等	上記を含み、各自自治体域で中心となる医療機関との連携・中心的医療機関を結ぶネットワークの構築	上記を含み、各自自治体で中心となる医療機関との連携、各自自治体ネットワークを利用した紹介・逆紹介	疾患別	疾患別広報・研修会の開催	疾患別特化的・特異的治療機関の情報提供	疾患別特化的・特異的治療機関への送致、疾患別連携クリティカルパス、緩和ケアクリティカルパス	職種別	職種別研修の開催(講演会など)	各職種の人的交流・各医療機関緩和ケアチームの横連携・情報交換	連携症例の検討
		医師	1	名																																						
相談員	5	名																																								
看護師	5	名																																								
事務員	1	名																																								
△大阪がん医療の向上を目指す会	2月26日会合																																									
△あけぼの大阪	8月23日会合																																									
△日本オストミー協会 関西支部 友起会	8月25日会合																																									
	一次連携	二次連携	三次連携																																							
地域密着型	拠点病院・がん相談室の広報・地域医療機関の連携収集・エビデンス診療情報管理・各種アンケート・予防啓発、医師会・在宅療養支援診療所等広報等	人的交流を含む地域医療資源収集、一般がん相談、グループワーク患者サロン等、患者図書室設置、代書・補完医療の情報収集・管理・提供、患者会との交流	セカンドオピニオン、インフォメーションリソースサービス、個別がん相談																																							
広域	拠点病院・がん相談室の広報・地域医療機関の連携収集・エビデンス診療情報管理・各種アンケート・予防啓発、医師会・在宅療養支援診療所等広報等	上記を含み、各自自治体域で中心となる医療機関との連携・中心的医療機関を結ぶネットワークの構築	上記を含み、各自自治体で中心となる医療機関との連携、各自自治体ネットワークを利用した紹介・逆紹介																																							
疾患別	疾患別広報・研修会の開催	疾患別特化的・特異的治療機関の情報提供	疾患別特化的・特異的治療機関への送致、疾患別連携クリティカルパス、緩和ケアクリティカルパス																																							
職種別	職種別研修の開催(講演会など)	各職種の人的交流・各医療機関緩和ケアチームの横連携・情報交換	連携症例の検討																																							

平成21年度目的として掲げた役割の実現へ向けた活動にかかる個別取り組み調書

役割	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ	備考																																								
がん医療の充実	ソフト面の充実	<p>4. 普及啓発・情報提供事業</p> <p>平成21年度は、副院長の発案により、がん関連の市民講座を9月から6回開催を行い、延395名の聴講者に講演をおこなった。</p> <p>そのほか、緩和ケアについて、当院のケアチームのアピール及び緩和ケア関連の啓発冊子の作成等をおこなった。</p>	<p>○市民講座の開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>講師・(市立岸和田市民病院)</th> <th>市民他参加者延数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 「がん全般について」</td> <td>小切副院長</td> <td>9月12日 98名</td> </tr> <tr> <td>第2回 「肺がん」</td> <td>川島呼吸器外科部長</td> <td>10月17日 68名</td> </tr> <tr> <td>第3回 「胃がん、大腸がん」</td> <td>小切副院長</td> <td>11月21日 60名</td> </tr> <tr> <td>第4回 「肝臓がん」</td> <td>梶村消化器内科部長</td> <td>12月19日 60名</td> </tr> <tr> <td>第5回 「乳がん」</td> <td>吉村乳腺外科部長</td> <td>1月16日 60名</td> </tr> <tr> <td>第6回 「緩和ケア」</td> <td>高見がん専門看護師</td> <td>2月20日 49名</td> </tr> </tbody> </table>		講師・(市立岸和田市民病院)	市民他参加者延数	第1回 「がん全般について」	小切副院長	9月12日 98名	第2回 「肺がん」	川島呼吸器外科部長	10月17日 68名	第3回 「胃がん、大腸がん」	小切副院長	11月21日 60名	第4回 「肝臓がん」	梶村消化器内科部長	12月19日 60名	第5回 「乳がん」	吉村乳腺外科部長	1月16日 60名	第6回 「緩和ケア」	高見がん専門看護師	2月20日 49名																				
			講師・(市立岸和田市民病院)	市民他参加者延数																																								
第1回 「がん全般について」	小切副院長	9月12日 98名																																										
第2回 「肺がん」	川島呼吸器外科部長	10月17日 68名																																										
第3回 「胃がん、大腸がん」	小切副院長	11月21日 60名																																										
第4回 「肝臓がん」	梶村消化器内科部長	12月19日 60名																																										
第5回 「乳がん」	吉村乳腺外科部長	1月16日 60名																																										
第6回 「緩和ケア」	高見がん専門看護師	2月20日 49名																																										
<p>5. その他</p> <p>○その他医療従事者の養成についても着実にこなっている。</p> <p>○緩和ケアに対して以下の取り組みを行っている。</p> <p>岸和田緩和ケアネットワーク研究会活動 緩和ケアイベント開催 患者・家族サロンの支援</p>	<p>○がん治療専門職の状況</p> <table border="1"> <tbody> <tr><td>△がん治療 暫定指導医</td><td>1名</td></tr> <tr><td>△がん臨床腫瘍学会 暫定指導医</td><td>1名</td></tr> <tr><td>△消化器がん外科治療認定医</td><td>2名</td></tr> <tr><td>△がん治療 認定医</td><td>6名</td></tr> <tr><td>△がん看護専門看護師</td><td>1名</td></tr> <tr><td>△緩和ケア認定看護師</td><td>1名</td></tr> <tr><td>△がん化学療法看護認定看護師</td><td>1名</td></tr> <tr><td>△皮膚・排泄ケア認定看護師</td><td>2名 等</td></tr> </tbody> </table> <p>○岸和田緩和ケア地域連携ネットワーク研究会 岸和田市を中心とした泉州地域における広義の緩和ケアチームの一部を担うネットワークの研究会であり、年4回の研究会と1回の講演会を予定し活動をおこなっている。 平成21年度は、下記日程で会議を行い 会議：4月16日、9月10日、12月10日、2月18日 講演会：7月25日 演題2 演者は、市立岸和田市民病院 呼吸器外科部長 川島Dr 演題1 「岸和田市における在宅緩和ケアの現状について」 演題2 「地域がん診療連携拠点病院での緩和ケアの現状(仮)」 特別講演「在宅における緩和医療について(仮)」</p> <p>○緩和ケア週間イベント開催 (地域医療センター主催) イベント：ピアノ演奏等 10月5～10月9日開催</p> <p>○患者・家族サロンへの支援 (緩和ケアチーム)</p> <p>1回当 定員6～8名(語り合いに適した人数として) 5月30日 4名(患者・家族) 12月1日 4名(患者・家族) 3月13日 5名(患者・家族)、院内入院患者6名</p>	△がん治療 暫定指導医	1名	△がん臨床腫瘍学会 暫定指導医	1名	△消化器がん外科治療認定医	2名	△がん治療 認定医	6名	△がん看護専門看護師	1名	△緩和ケア認定看護師	1名	△がん化学療法看護認定看護師	1名	△皮膚・排泄ケア認定看護師	2名 等	<p>○がん診療連携拠点病院基礎データ</p> <table border="1"> <tbody> <tr><td>新入院がん患者数</td><td>2,102 件/年</td></tr> <tr><td>外来がん患者延数</td><td>29,794 件/年</td></tr> <tr><td>悪性腫瘍手術件数</td><td>112 件/2ヶ月</td></tr> <tr><td>放射線体外照射 患者実数</td><td>288 人/年</td></tr> <tr><td>照射回数</td><td>1,167 回/2ヶ月</td></tr> <tr><td>化学療法入院 延べ患者</td><td>91 人/2ヶ月</td></tr> <tr><td>同延べ処方回数</td><td>507 件/2ヶ月</td></tr> <tr><td>化学療法外来のべ患者</td><td>239 人/2ヶ月</td></tr> <tr><td>同延べ処方回数</td><td>733 件/2ヶ月</td></tr> <tr><td>緩和ケアチーム新規依頼件数</td><td>5 件/2ヶ月</td></tr> <tr><td>病理診断件数</td><td>594 件/2ヶ月</td></tr> <tr><td>うち迅速検査件数</td><td>64 件/2ヶ月</td></tr> <tr><td>相談支援センター相談件数</td><td>637 件/2ヶ月</td></tr> </tbody> </table>	新入院がん患者数	2,102 件/年	外来がん患者延数	29,794 件/年	悪性腫瘍手術件数	112 件/2ヶ月	放射線体外照射 患者実数	288 人/年	照射回数	1,167 回/2ヶ月	化学療法入院 延べ患者	91 人/2ヶ月	同延べ処方回数	507 件/2ヶ月	化学療法外来のべ患者	239 人/2ヶ月	同延べ処方回数	733 件/2ヶ月	緩和ケアチーム新規依頼件数	5 件/2ヶ月	病理診断件数	594 件/2ヶ月	うち迅速検査件数	64 件/2ヶ月	相談支援センター相談件数	637 件/2ヶ月
△がん治療 暫定指導医	1名																																											
△がん臨床腫瘍学会 暫定指導医	1名																																											
△消化器がん外科治療認定医	2名																																											
△がん治療 認定医	6名																																											
△がん看護専門看護師	1名																																											
△緩和ケア認定看護師	1名																																											
△がん化学療法看護認定看護師	1名																																											
△皮膚・排泄ケア認定看護師	2名 等																																											
新入院がん患者数	2,102 件/年																																											
外来がん患者延数	29,794 件/年																																											
悪性腫瘍手術件数	112 件/2ヶ月																																											
放射線体外照射 患者実数	288 人/年																																											
照射回数	1,167 回/2ヶ月																																											
化学療法入院 延べ患者	91 人/2ヶ月																																											
同延べ処方回数	507 件/2ヶ月																																											
化学療法外来のべ患者	239 人/2ヶ月																																											
同延べ処方回数	733 件/2ヶ月																																											
緩和ケアチーム新規依頼件数	5 件/2ヶ月																																											
病理診断件数	594 件/2ヶ月																																											
うち迅速検査件数	64 件/2ヶ月																																											
相談支援センター相談件数	637 件/2ヶ月																																											

平成21年度目的として掲げた役割の実現に向けた活動にかかる個別取り組み調書

役割	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ
	医療従事者への教育・研究活動	<p>○ 臨床研修の継続</p> <p>○ 看護師、医療従事者への講義の継続</p>	<p>○臨床研修制度の実施</p> <p style="padding-left: 40px;">基幹型臨床研修病院として研修を実施</p> <p style="padding-left: 80px;">指導医 64名 (H21年4月1日現在)</p> <p style="padding-left: 80px;">研修医 13名 (H21年4月1日現在)</p> <p>○岸和田市医師会看護学校講義</p> <p style="padding-left: 40px;">平成21年9月より 年度11回 参加者 120名/回</p> <p style="padding-left: 80px;">第1週目または第2週目の任意日付</p> <p style="padding-left: 40px;">対象: 看護学生</p> <p>○久米田看護専門学校講義</p> <p style="padding-left: 40px;">平成21年度 年度6回 参加者 40名/回</p> <p style="padding-left: 40px;">対象: 看護学生</p> <p>○地域医療連携公開セミナー開催</p> <p style="padding-left: 40px;">△ 地域医療連携で支える褥瘡対策 参加者 24名</p> <p style="padding-left: 80px;">平成21年12月17日(木)開催 うち医師 7名</p> <p style="padding-left: 80px;">対象: 地域医師、看護師</p> <p style="padding-left: 40px;">△ 在宅ケアネットワーク</p> <p style="padding-left: 80px;">平成21年10月31日(土)開催 参加者 216名</p> <p style="padding-left: 80px;">対象: 訪問看護師、ヘルパー、ケアマネージャ</p>
教育病院への取り組み	市民向け健康教育活動	○年間を通じた市民講座の実施	<p>○市民講座</p> <p>△「乳がんの危険因子は？」</p> <p style="padding-left: 40px;">平成21年5月28日(木)開催 参加者: 31名</p> <p style="padding-left: 80px;">乳腺科部長 吉村吾郎 対象: 一般</p> <p>△「心臓疾患について」</p> <p style="padding-left: 40px;">平成21年6月1日(月)開催 参加者: 60名</p> <p style="padding-left: 80px;">心臓血管外科部長 尾上雅彦 対象: 一般</p> <p>△「薬のお話」</p> <p style="padding-left: 40px;">平成21年6月9日(火)開催 参加者: 15名</p> <p style="padding-left: 80px;">薬剤長 増井英彦 対象: 一般</p> <p>△「かかりつけ医を持とう」</p> <p style="padding-left: 40px;">平成21年7月17日(金)開催 参加者: 174名</p> <p style="padding-left: 80px;">地域連携室 大家愛佐子 対象: 一般</p> <p>◇市政だより「かかりつけ医を持とう」の製作・発信</p> <p style="padding-left: 40px;">市立岸和田市民病院・岸和田市広報公聴課・テレビ岸和田</p> <p>◇地域医療連携ニュースの発行</p> <p style="padding-left: 40px;">毎月発行</p> <p>△「新型インフルエンザの現状と予防・対処法について」</p> <p style="padding-left: 40px;">平成21年9月10日(木)開催 参加者: 26名</p> <p style="padding-left: 80px;">看護師長 林 眞樹 対象: 一般</p> <p>△「予防医学について」</p> <p style="padding-left: 40px;">平成22年1月15日(木)開催 参加者: 15名</p> <p style="padding-left: 80px;">中央検査技師長 河崎俊郎 対象: 一般</p> <p>△「病院食について」</p> <p style="padding-left: 40px;">平成22年1月15日(木)開催 参加者: 10名</p> <p style="padding-left: 80px;">栄養管理担当長 藤原幸子 対象: 一般</p> <p>△「下肢静脈瘤のはなし」</p> <p style="padding-left: 40px;">平成22年2月24日(水)開催 参加者: 25名</p> <p style="padding-left: 80px;">心臓血管外科部長 尾上雅彦 対象: 一般</p>

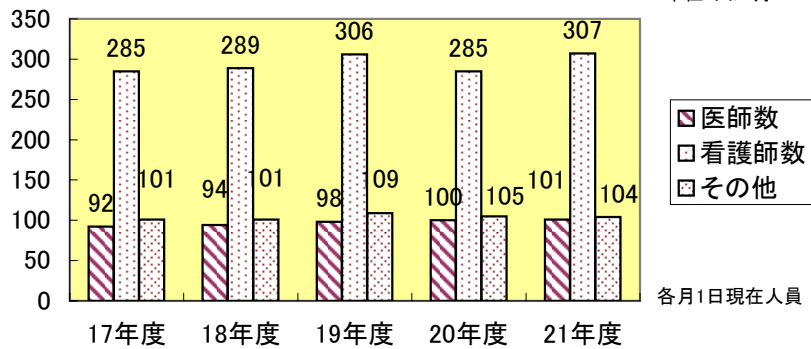
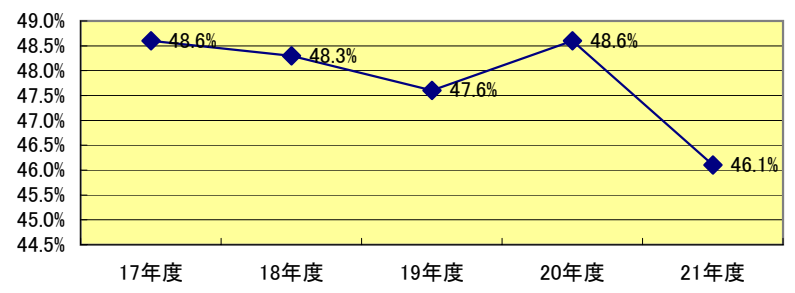
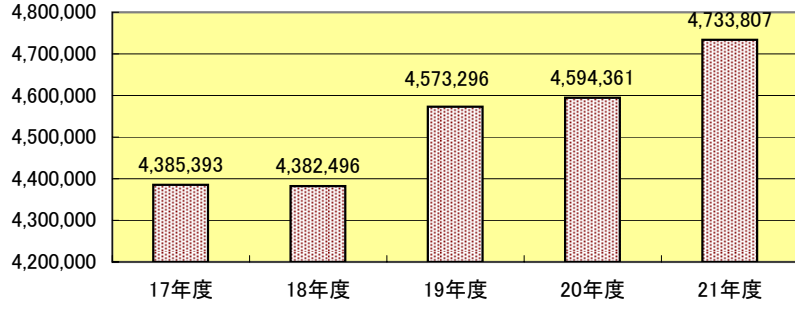
平成21年度目的として掲げた役割の実現に向けた活動にかかる個別取り組み調書

役割	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ																												
全体の最適化についての取り組み	地域連携室の利用状況	○地域連携室の利用の向上	<p>○地域連携の状況について</p> <p>紹介率は40%前半で推移しているが、逆紹介率も60%以上を達成している。</p> <p>地域連携室での各診療科に対する予約件数も伸びてきている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1032 436 1935 1012"> <p>紹介率・逆紹介率 1月累計比較 単位: %</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ 紹介率</td> <td>42.0</td> <td>41.2</td> <td>43.7</td> </tr> <tr> <td>▨ 逆紹介率</td> <td>36.8</td> <td>50.8</td> <td>61.9</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="1952 436 2855 1012"> <p>地域連携室予約状況 1月累計比較 単位: 件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>診療科予約件数</th> <th>放射線予約件数</th> <th>健診等予約件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ H19</td> <td>4,469</td> <td>1,484</td> <td>882</td> </tr> <tr> <td>▨ H20</td> <td>4,382</td> <td>1,522</td> <td>698</td> </tr> <tr> <td>□ H21</td> <td>4,688</td> <td>1,476</td> <td>881</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>		H19	H20	H21	■ 紹介率	42.0	41.2	43.7	▨ 逆紹介率	36.8	50.8	61.9		診療科予約件数	放射線予約件数	健診等予約件数	■ H19	4,469	1,484	882	▨ H20	4,382	1,522	698	□ H21	4,688	1,476	881
	H19	H20	H21																												
■ 紹介率	42.0	41.2	43.7																												
▨ 逆紹介率	36.8	50.8	61.9																												
	診療科予約件数	放射線予約件数	健診等予約件数																												
■ H19	4,469	1,484	882																												
▨ H20	4,382	1,522	698																												
□ H21	4,688	1,476	881																												
	地域医療再生等の提案	○大阪府再生医療計画への提案	<p>○大阪府における地域医療再生計画への提案について</p> <p>平成21年度国の補正予算により、各都道府県に地域再生医療基金が創設され、二次医療圏単位での再生計画の中から、申請を通じて採択されるものであり、採択後5カ年間の事業期間が設定されているものであるが、当院においては、下記のとおり提案をおこなったが、採択はなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 泉州北部における成人、小児初期救急センターの新設 (岸和田市・貝塚周辺) 複数の公立病院での内科医等不足に対し救急体制の充実と、現受入病院での救急勤務医の疲弊の緩和を目的とする。 ◇ 放射線治療共同利用センターの新設 放射線治療の需要の増加と設備・人材への供給不足を解消するため、放射線治療の集約化を図り、二次医療圏病院での共同利用を目的とする。 <p style="text-align: right;">○下記は、大阪府看護協会を通じて提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇看護職員の特定分野における看護の専門性を高める研修 がん看護事例検討会 ◇訪問看護従事者、ケアマネージャー、介護ヘルパー資格者の研修 地域医療施設に対する研修 在宅における感染予防の基本について 在宅における褥瘡予防ケアについて 在宅で終末期を迎える患者・家族ケアについて 急変時の対応について ◇市民公開講座 インフルエンザ流行に備えての感染予防対策 (前述) 																												
市民等への理解を求める努力について	広報活動	○各種広報活動の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ◇がん等市民講座の開催 ◇地域連携ニュースの発行 ◇「かかりつけ医を持とう」のDVD作成、市政だより放映 <p>○住民等への理解促進について</p> <p>総合的に広報力が弱いと、あり方検討委員会での委員各位より指摘のあった部分である。右記の展開を図ったが、さらにその充実発展を図るため検討実施を行う。</p>																												

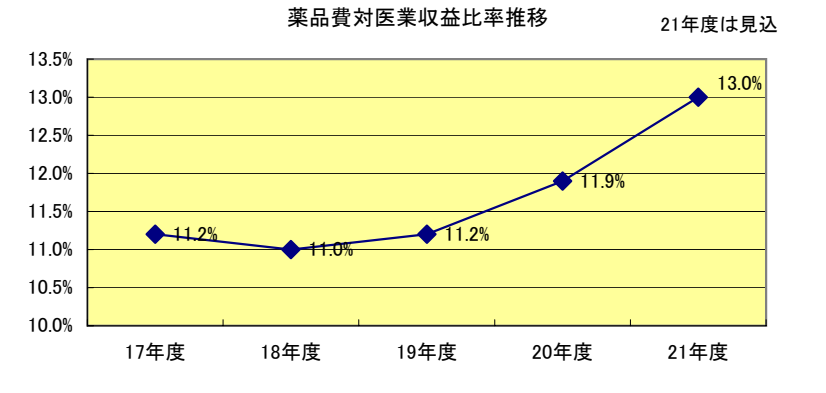
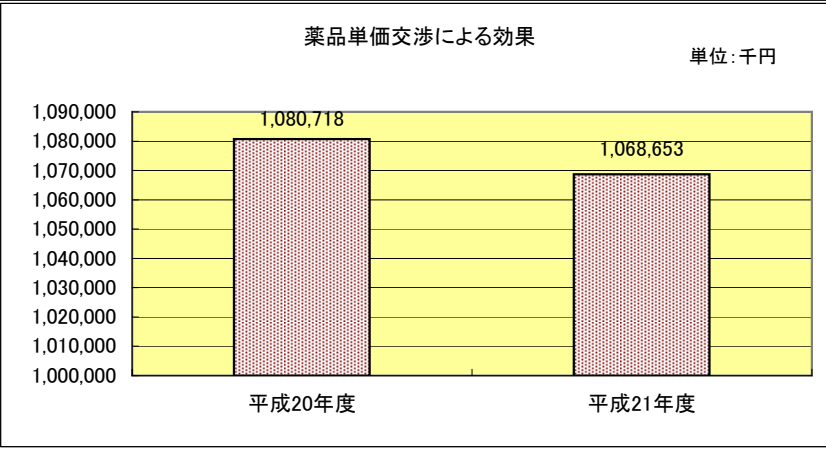
平成21年度経営改善計画個別評価表

実施目標	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ						備考																																										
収益の確保	収益の増強	<p>○DPC対象と7対1取得による診療単価の評価</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> <th>単位:人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>123,178</td> <td>127,750</td> <td>123,010</td> <td>△ 4,740</td> <td>△ 168</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一日当たり入院患者数</td> <td>337</td> <td>350</td> <td>337</td> <td>△ 13</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>297,747</td> <td>303,710</td> <td>286,001</td> <td>△ 17,709</td> <td>△ 11,746</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一日当たり外来患者数</td> <td>1,220</td> <td>1,255</td> <td>1,181</td> <td>△ 74</td> <td>△ 39</td> <td></td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>84.4</td> <td>87.5</td> <td>84.3</td> <td>△ 3.2</td> <td>△ 0.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:人	入院延患者数	123,178	127,750	123,010	△ 4,740	△ 168		一日当たり入院患者数	337	350	337	△ 13	0		外来延患者数	297,747	303,710	286,001	△ 17,709	△ 11,746		一日当たり外来患者数	1,220	1,255	1,181	△ 74	△ 39		病床利用率	84.4	87.5	84.3	△ 3.2	△ 0.1		<p>○収益拡大についての課題</p>
			平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:人																																											
		入院延患者数	123,178	127,750	123,010	△ 4,740	△ 168																																												
		一日当たり入院患者数	337	350	337	△ 13	0																																												
		外来延患者数	297,747	303,710	286,001	△ 17,709	△ 11,746																																												
		一日当たり外来患者数	1,220	1,255	1,181	△ 74	△ 39																																												
		病床利用率	84.4	87.5	84.3	△ 3.2	△ 0.1																																												
		<p>DPC対象病院及び一般入院基本料7対1基準の取得については、前述したとおりである。 これらの行動により、入院単価が診療報酬上、高機能としての評価が得られ、入院単価の引き上げが可能とされたところである。 また、こうした計画を当初平成22年度までに到達させる目標を立てていたが、看護局を中心に看護師確保の尽力の結果、1年早く前倒しすることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> <th>単位:円・税抜</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者一人当たり額</td> <td>46,122</td> <td>48,000</td> <td>51,700</td> <td>3,700</td> <td>5,578</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外来患者一人当たり額</td> <td>10,665</td> <td>10,900</td> <td>11,500</td> <td>600</td> <td>835</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:円・税抜	入院患者一人当たり額	46,122	48,000	51,700	3,700	5,578		外来患者一人当たり額	10,665	10,900	11,500	600	835		<p>収益計画は計画達成できたものの、病床利用率が低下と、入院新患者数の伸び悩みが問題である。</p>																					
			平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:円・税抜																																											
		入院患者一人当たり額	46,122	48,000	51,700	3,700	5,578																																												
外来患者一人当たり額	10,665	10,900	11,500	600	835																																														
<p>外来収益についても、計画単価は、上回っているものの、収益では、計画値にわずか及んでいない。 単価の上昇は、外来化学療法の実用が活発化しており、当院のがん診療の推進により、抗がん剤などの高額品の採用が要因となっている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> <th>単位:千円・税込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院収益</td> <td>5,681,485</td> <td>6,132,000</td> <td>6,354,485</td> <td>222,485</td> <td>673,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外来収益</td> <td>3,176,059</td> <td>3,310,439</td> <td>3,294,935</td> <td>△ 15,504</td> <td>118,876</td> <td></td> </tr> <tr> <td>入院・外来収益</td> <td>8,857,544</td> <td>9,442,439</td> <td>9,649,420</td> <td>206,981</td> <td>791,876</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込	入院収益	5,681,485	6,132,000	6,354,485	222,485	673,000		外来収益	3,176,059	3,310,439	3,294,935	△ 15,504	118,876		入院・外来収益	8,857,544	9,442,439	9,649,420	206,981	791,876		<p>今後は、この課題の解消に向けた努力が必要である。</p>																
	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込																																													
入院収益	5,681,485	6,132,000	6,354,485	222,485	673,000																																														
外来収益	3,176,059	3,310,439	3,294,935	△ 15,504	118,876																																														
入院・外来収益	8,857,544	9,442,439	9,649,420	206,981	791,876																																														
<p>外来患者数については、微減傾向が続いている。病院としては、「かかりつけ医」による一次受診の後、紹介状による来院を目指しており、今後は、地域診療所等との連携が、患者獲得のステップであると考えている。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1038 504 1573 1050"> <p>一日平均患者数推移 単位:人</p> <table border="1"> <caption>一日平均患者数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>一日平均入院患者数</th> <th>一日平均外来患者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>17年度</td><td>335</td><td>1,229</td></tr> <tr><td>18年度</td><td>340</td><td>1,217</td></tr> <tr><td>19年度</td><td>344</td><td>1,251</td></tr> <tr><td>20年度</td><td>337</td><td>1,220</td></tr> <tr><td>21年度</td><td>323</td><td>1,214</td></tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="1587 504 2136 1050"> <p>月平均入院新患者数 単位:人</p> <table border="1"> <caption>月平均入院新患者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>月平均入院新患者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>17年度</td><td>672</td></tr> <tr><td>18年度</td><td>664</td></tr> <tr><td>19年度</td><td>722</td></tr> <tr><td>20年度</td><td>703</td></tr> <tr><td>21年度</td><td>687</td></tr> </tbody> </table> </div> </div>						年度	一日平均入院患者数	一日平均外来患者数	17年度	335	1,229	18年度	340	1,217	19年度	344	1,251	20年度	337	1,220	21年度	323	1,214	年度	月平均入院新患者数	17年度	672	18年度	664	19年度	722	20年度	703	21年度	687															
年度	一日平均入院患者数	一日平均外来患者数																																																	
17年度	335	1,229																																																	
18年度	340	1,217																																																	
19年度	344	1,251																																																	
20年度	337	1,220																																																	
21年度	323	1,214																																																	
年度	月平均入院新患者数																																																		
17年度	672																																																		
18年度	664																																																		
19年度	722																																																		
20年度	703																																																		
21年度	687																																																		
<p>診療単価推移 単位:円</p> <table border="1"> <caption>診療単価推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>入院 (円)</th> <th>外来 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>17年度</td><td>46,901</td><td>9,066</td></tr> <tr><td>18年度</td><td>45,582</td><td>9,531</td></tr> <tr><td>19年度</td><td>47,467</td><td>10,189</td></tr> <tr><td>20年度</td><td>46,122</td><td>10,665</td></tr> <tr><td>21年度</td><td>51,700</td><td>11,500</td></tr> </tbody> </table>			年度	入院 (円)	外来 (円)	17年度	46,901	9,066	18年度	45,582	9,531	19年度	47,467	10,189	20年度	46,122	10,665	21年度	51,700	11,500																															
年度	入院 (円)	外来 (円)																																																	
17年度	46,901	9,066																																																	
18年度	45,582	9,531																																																	
19年度	47,467	10,189																																																	
20年度	46,122	10,665																																																	
21年度	51,700	11,500																																																	
<p>単位:%</p> <table border="1"> <caption>診療単価推移 (率)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>病床稼働率 (%)</th> <th>平均在院日数</th> <th>患者紹介率 (%)</th> <th>逆紹介率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>17年度</td><td>95.8</td><td>49.9</td><td>40.5</td><td>14.2</td></tr> <tr><td>18年度</td><td>97.2</td><td>39.5</td><td>34.2</td><td>14.6</td></tr> <tr><td>19年度</td><td>86.2</td><td>42.0</td><td>36.8</td><td>13.6</td></tr> <tr><td>20年度</td><td>84.4</td><td>50.8</td><td>41.2</td><td>13.6</td></tr> <tr><td>21年度</td><td>81.0</td><td>61.9</td><td>43.7</td><td>13.4</td></tr> </tbody> </table>			年度	病床稼働率 (%)	平均在院日数	患者紹介率 (%)	逆紹介率 (%)	17年度	95.8	49.9	40.5	14.2	18年度	97.2	39.5	34.2	14.6	19年度	86.2	42.0	36.8	13.6	20年度	84.4	50.8	41.2	13.6	21年度	81.0	61.9	43.7	13.4																			
年度	病床稼働率 (%)	平均在院日数	患者紹介率 (%)	逆紹介率 (%)																																															
17年度	95.8	49.9	40.5	14.2																																															
18年度	97.2	39.5	34.2	14.6																																															
19年度	86.2	42.0	36.8	13.6																																															
20年度	84.4	50.8	41.2	13.6																																															
21年度	81.0	61.9	43.7	13.4																																															

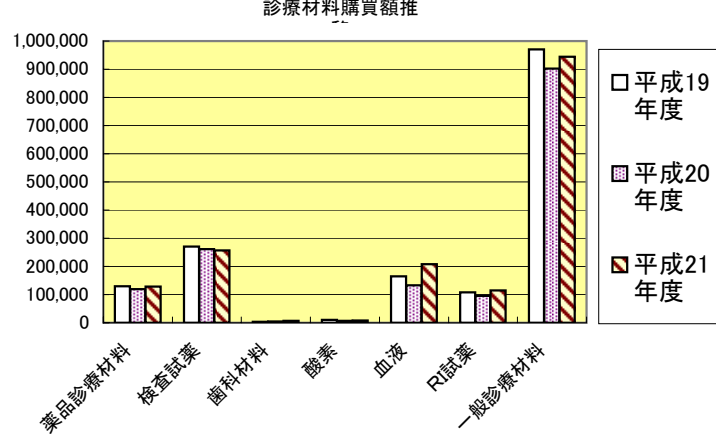
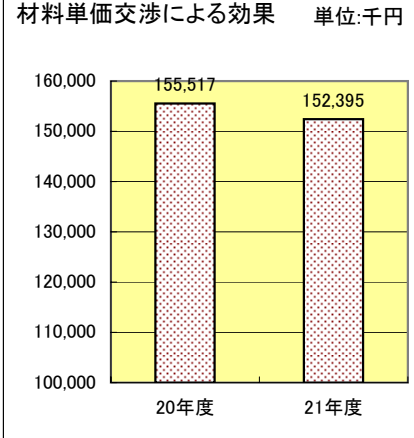
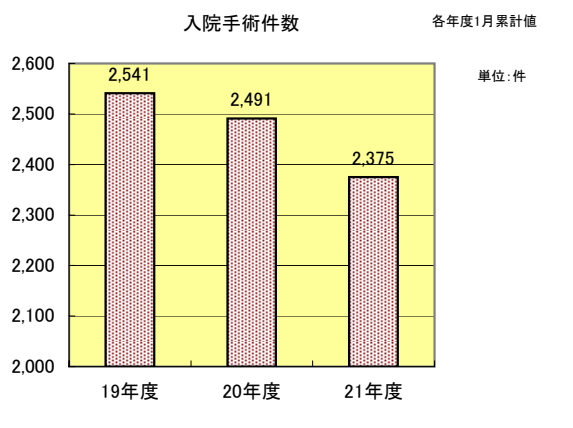
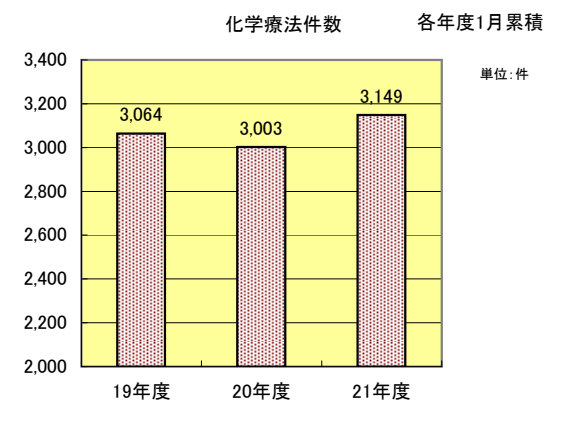
平成21年度経営改善計画個別評価表

実施目標	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ						備考																																											
収益の確保	要員の確保	○医師、看護師の確保について	(3月1日分まで平均)						<p data-bbox="2151 220 2629 472"> 単位：人 単位：千円・税込 ○人件費と人件費比率について グラフでは、人件費が7対1基準に伴う、看護師の確保等で増額しているが、一方で、医業収益に対する比率では、低減している。 職員の採用は、収益とのバランスが大事であり、バランスを欠くと収支悪化につながる。 当院では、今年度については、バランスを取れたものと見れる。 </p>																																											
		看護師正職員については、平成21年度は採用、退職を合わせて約29名の増員を計画し、18名の純増を確保している。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>98</td> <td>102</td> <td>101</td> <td>△ 1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>288</td> <td>317</td> <td>306</td> <td>△ 11</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>107</td> <td>105</td> <td>104</td> <td>△ 1</td> <td>△ 3</td> </tr> <tr> <td>正規・嘱託計</td> <td>493</td> <td>524</td> <td>511</td> <td>△ 13</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>臨時職員</td> <td>107</td> <td>96</td> <td>121</td> <td>25</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>うち看護師</td> <td>33</td> <td>22</td> <td>72</td> <td>50</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>総員</td> <td>600</td> <td>620</td> <td>632</td> <td>12</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差		実績・決見比較	医師	98	102	101	△ 1	3	看護師	288	317	306	△ 11	18	その他	107	105	104	△ 1	△ 3	正規・嘱託計	493	524	511	△ 13	18	臨時職員	107	96	121	25	14	うち看護師	33	22	72	50	39	総員	600	620	632	12	32
			平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較																																													
		医師	98	102	101	△ 1	3																																													
		看護師	288	317	306	△ 11	18																																													
		その他	107	105	104	△ 1	△ 3																																													
		正規・嘱託計	493	524	511	△ 13	18																																													
		臨時職員	107	96	121	25	14																																													
		うち看護師	33	22	72	50	39																																													
		総員	600	620	632	12	32																																													
医師については、嘱託医の正職採用、また病理診断医、麻酔科医の正職を採用した。研修医についても前年度に比べ2名増加している。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給料</td> <td>1,613,947</td> <td>1,805,494</td> <td>1,681,357</td> <td>△ 124,137</td> <td>67,410</td> </tr> <tr> <td>手当</td> <td>1,887,332</td> <td>2,062,887</td> <td>1,912,243</td> <td>△ 150,644</td> <td>24,911</td> </tr> <tr> <td>賃金</td> <td>380,118</td> <td>252,274</td> <td>424,716</td> <td>172,442</td> <td>44,598</td> </tr> <tr> <td>法定福利</td> <td>510,117</td> <td>616,609</td> <td>597,371</td> <td>△ 19,238</td> <td>87,254</td> </tr> <tr> <td>退職金</td> <td>214,025</td> <td>107,750</td> <td>130,000</td> <td>22,250</td> <td>△ 84,025</td> </tr> <tr> <td>人件費計</td> <td>4,605,539</td> <td>4,845,014</td> <td>4,745,687</td> <td>△ 99,327</td> <td>140,148</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	給料	1,613,947	1,805,494	1,681,357	△ 124,137	67,410	手当	1,887,332	2,062,887	1,912,243	△ 150,644	24,911	賃金	380,118	252,274	424,716	172,442	44,598	法定福利	510,117	616,609	597,371	△ 19,238	87,254	退職金	214,025	107,750	130,000	22,250	△ 84,025	人件費計	4,605,539	4,845,014	4,745,687	△ 99,327	140,148									
	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較																																															
給料	1,613,947	1,805,494	1,681,357	△ 124,137	67,410																																															
手当	1,887,332	2,062,887	1,912,243	△ 150,644	24,911																																															
賃金	380,118	252,274	424,716	172,442	44,598																																															
法定福利	510,117	616,609	597,371	△ 19,238	87,254																																															
退職金	214,025	107,750	130,000	22,250	△ 84,025																																															
人件費計	4,605,539	4,845,014	4,745,687	△ 99,327	140,148																																															
<p data-bbox="1291 682 1484 714">常勤職員数推移</p> <p data-bbox="1662 703 1780 724">単位：人／月</p>  <p data-bbox="1662 987 1780 1008">各月1日現在人員</p>																																																				
<p data-bbox="1350 1102 1513 1123">職員給与費比率</p> 																																																				
<p data-bbox="1394 1480 1469 1501">人件費</p> <p data-bbox="1676 1501 1751 1522">単位：千円</p> 																																																				

平成21年度経営改善計画個別評価表

実施目標	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ	備考																																										
費用の効率化	薬品購買の見直しについて	<p>○薬品購買額の低減への取り組み</p> <p>薬剤部において、不動薬品の洗い出し及び、削除するなど、在庫整理についても推進した。 薬品は、患者様に直結するため、削除、整理については、医師等の協力が不可欠であり、こうした取り組みについて、薬剤長を中心に推進し、医師等の協力を得て、少しずつではあるが、前進している。</p> <p>薬品購買については、購買額の低減に向け事務局・薬剤部の協働により取り扱いディーラーを絞込むなど、精力的に交渉を行った。これらの取り組みにより、値引きによる購買額の低減を進めた。</p> <p>しかしながら、上記の取り組みを通じたものの、平成21年度については、泉州二次医療圏での血液内科医の不足問題により、当院への受診状況が変化し、一部症例で、症例限定薬が大量に使用された。 また、呼吸器科、消化器内科、血液内科などで、新規採用抗がん剤の使用による購買額が顕著に伸びたことにより、計画額を大幅に上回る見込みとなった。</p> <p>ただし、一方で、この影響により、外来単価の一定部分について、この点が顕著に反映され、診療単価引き上げの一因となったのも事実である。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>医薬品</th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院外来収益</td> <td>8,857,544</td> <td>9,442,439</td> <td>9,649,420</td> <td>206,981</td> <td>791,876</td> </tr> <tr> <td>医薬品費</td> <td>1,131,063</td> <td>1,196,357</td> <td>1,339,319</td> <td>142,962</td> <td>208,256</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12.77%</td> <td>12.67%</td> <td>13.88%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>対決算増加額</td> <td></td> <td>65,294</td> <td>208,256</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画時点増加予測額</td> <td></td> <td>1,214,066</td> <td>1,214,066</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果予定額</td> <td></td> <td>△ 17,709</td> <td>125,253</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	医薬品	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	入院外来収益	8,857,544	9,442,439	9,649,420	206,981	791,876	医薬品費	1,131,063	1,196,357	1,339,319	142,962	208,256		12.77%	12.67%	13.88%			対決算増加額		65,294	208,256			計画時点増加予測額		1,214,066	1,214,066			効果予定額		△ 17,709	125,253			<p>○薬品購買の現状</p> <p>平成21年度は見込みであるが、薬品購買額の医業収益に占め割合が増加している。引き上げの要因は、症例限定薬、抗がん剤の採用など従来の薬品構成が、抗がん剤関連薬品にシフトしていると思われる。</p> <p>○薬品購買交渉結果について</p> <p>左グラフは、薬品単価交渉による単価比較での効果の検証を行ったものである。価格変動した薬品における購買効果額は年間約△12百万程度あったものの、新規採用品等の純増部分が非常に高く、計画額を上回る見込みとなった。</p> <p>抗がん剤の採用が従前よりも活発化しているため、今後の購買額圧縮の課題点となっている。</p>
	医薬品	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較																																								
入院外来収益	8,857,544	9,442,439	9,649,420	206,981	791,876																																									
医薬品費	1,131,063	1,196,357	1,339,319	142,962	208,256																																									
	12.77%	12.67%	13.88%																																											
対決算増加額		65,294	208,256																																											
計画時点増加予測額		1,214,066	1,214,066																																											
効果予定額		△ 17,709	125,253																																											
	○ジェネリック薬への切り替えの取り組み	<p>ジェネリック薬への切り替えについては、院内委員会である薬事審議会において議論を進めながら、十分検討のうえ、推進しているところであり、高額薬剤にターゲットを絞りジェネリック化を推進している。</p> <table border="1" data-bbox="549 1627 875 1827"> <thead> <tr> <th colspan="2">購買金額</th> </tr> <tr> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品総金額</td> <td>薬品総金額</td> </tr> <tr> <td>1,131,063</td> <td>1,339,319</td> </tr> <tr> <td>ジェネリック</td> <td>ジェネリック</td> </tr> <tr> <td>43,945</td> <td>79,019</td> </tr> <tr> <td>3.89%</td> <td>5.90%</td> </tr> </tbody> </table>	購買金額		平成20年度	平成21年度見込	薬品総金額	薬品総金額	1,131,063	1,339,319	ジェネリック	ジェネリック	43,945	79,019	3.89%	5.90%	<p>薬品費対医業収益比率推移 21年度は見込</p>  <p>剤形別使用金額 年度末比較 単位：千円</p> <table border="1" data-bbox="1202 850 1973 1249"> <thead> <tr> <th></th> <th>内服薬</th> <th>外用薬</th> <th>注射薬</th> <th>麻薬</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ 19年度</td> <td>87,371</td> <td>40,208</td> <td>934,676</td> <td>19,287</td> </tr> <tr> <td>■ 20年度</td> <td>96,831</td> <td>36,196</td> <td>971,202</td> <td>26,835</td> </tr> <tr> <td>▨ 21年度</td> <td>110,457</td> <td>47,009</td> <td>1,160,111</td> <td>21,742</td> </tr> </tbody> </table> <p>薬品単価交渉による効果 単位：千円</p>  <p>上記の算出は、平成21年1月累計数量に対し、平成20年度単価、平成21年度単価をそれぞれ掛け合わせた総額を比較したものである。新規採用品及び削除品については除いている。(4月～2月交渉結果反映後)</p>		内服薬	外用薬	注射薬	麻薬	□ 19年度	87,371	40,208	934,676	19,287	■ 20年度	96,831	36,196	971,202	26,835	▨ 21年度	110,457	47,009	1,160,111	21,742									
購買金額																																														
平成20年度	平成21年度見込																																													
薬品総金額	薬品総金額																																													
1,131,063	1,339,319																																													
ジェネリック	ジェネリック																																													
43,945	79,019																																													
3.89%	5.90%																																													
	内服薬	外用薬	注射薬	麻薬																																										
□ 19年度	87,371	40,208	934,676	19,287																																										
■ 20年度	96,831	36,196	971,202	26,835																																										
▨ 21年度	110,457	47,009	1,160,111	21,742																																										

平成21年度経営改善計画個別評価表

実施目標	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ						備考																																													
費用の効率化	材料購買の見直しについて	○診療材料購買額の圧縮の取り組み	<table border="1"> <thead> <tr> <th>診療材料</th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> <th>単位:千円・税込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院外来収益</td> <td>8,857,544</td> <td>9,442,439</td> <td>9,649,420</td> <td>206,981</td> <td>791,876</td> <td></td> </tr> <tr> <td>診療材料費</td> <td>1,521,658</td> <td>1,638,808</td> <td>1,667,022</td> <td>28,214</td> <td>145,364</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>17.18%</td> <td>17.36%</td> <td>17.28%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画時点増加予測額</td> <td></td> <td>1,702,472</td> <td>1,702,472</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果予定額</td> <td></td> <td>△ 63,664</td> <td>△ 35,450</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						診療材料	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込	入院外来収益	8,857,544	9,442,439	9,649,420	206,981	791,876		診療材料費	1,521,658	1,638,808	1,667,022	28,214	145,364			17.18%	17.36%	17.28%				計画時点増加予測額		1,702,472	1,702,472				効果予定額		△ 63,664	△ 35,450							
		診療材料	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込																																														
		入院外来収益	8,857,544	9,442,439	9,649,420	206,981	791,876																																															
		診療材料費	1,521,658	1,638,808	1,667,022	28,214	145,364																																															
			17.18%	17.36%	17.28%																																																	
		計画時点増加予測額		1,702,472	1,702,472																																																	
		効果予定額		△ 63,664	△ 35,450																																																	
		診療材料購買額については、院内物流体制と絡めて、その圧縮手法について検討を行った。																																																				
		検討の末、現状の運営スタイルを勘案した結果、計画初年度については、院内コンセンサスが十分ではなく、時期尚早としたため、現運用堅持が妥当であると、病院として結論に至ったことから、材料マスターのベンチマークによる価格交渉を継続し、購買圧縮をおこなった。	<p>○診療材料の大分類内訳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>購買額明細</th> <th>平成20年度決算</th> <th>平成21年度決算見込</th> <th>実績・決見比較</th> <th>単位:千円・税込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品材料(造影剤等)</td> <td>119,127</td> <td>128,307</td> <td>9,180</td> <td></td> </tr> <tr> <td>検査試薬</td> <td>261,140</td> <td>257,108</td> <td>△ 4,032</td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯科材料</td> <td>4,096</td> <td>6,376</td> <td>2,280</td> <td></td> </tr> <tr> <td>酸素</td> <td>7,295</td> <td>8,464</td> <td>1,169</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他材料</td> <td>901,734</td> <td>944,830</td> <td>43,096</td> <td></td> </tr> <tr> <td>血液</td> <td>133,130</td> <td>207,686</td> <td>74,556</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アイトープ</td> <td>95,136</td> <td>114,251</td> <td>19,115</td> <td></td> </tr> <tr> <td>診療材料計</td> <td>1,521,658</td> <td>1,667,022</td> <td>145,364</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						購買額明細	平成20年度決算	平成21年度決算見込	実績・決見比較	単位:千円・税込	薬品材料(造影剤等)	119,127	128,307	9,180		検査試薬	261,140	257,108	△ 4,032		歯科材料	4,096	6,376	2,280		酸素	7,295	8,464	1,169		その他材料	901,734	944,830	43,096		血液	133,130	207,686	74,556		アイトープ	95,136	114,251	19,115		診療材料計	1,521,658	1,667,022	145,364		○診療材料購買の当年度の動き
		購買額明細	平成20年度決算	平成21年度決算見込	実績・決見比較	単位:千円・税込																																																
薬品材料(造影剤等)	119,127	128,307	9,180																																																			
検査試薬	261,140	257,108	△ 4,032																																																			
歯科材料	4,096	6,376	2,280																																																			
酸素	7,295	8,464	1,169																																																			
その他材料	901,734	944,830	43,096																																																			
血液	133,130	207,686	74,556																																																			
アイトープ	95,136	114,251	19,115																																																			
診療材料計	1,521,658	1,667,022	145,364																																																			
特に一般材料について、主要取引ディーラーに対し、ベンチマークでの評価の悪い物品を中心にベンチマーク適正となるように価格交渉を行った。	<p>4月～12月交渉結果</p>  						<p>今年度は、前述の血液内科の診療動向により、輸血用などの「血液」の購買額が想定外に急増し、購買額を顕著に引き上げる見込みとなり、計画効果額の想定が半減し、計画額から約3,000万円程度超過する込みとなった。</p> <p>診療材料が主に重点的に使用される場合は、手術室であり、手術室の動向を見ると平成21年度については、手術件数は減少傾向となっている。</p> <p>一方、化学療法件数が増加している傾向であり、要因の全てではないが、外来化学療法が手術よりも積極的に活用されたものと見られる。</p>																																															
	 						<p>それにもかかわらず、診療材料購買額が伸びたのは、「輸血」用血液等の急増、除細動器付きペースメーカー埋め込み術などの高度な手術の再開に伴う、高額材料が継続的に購買されたことが、計画値を上回った主な要因である。</p>																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>診療材料</th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> <th>単位:千円・税込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療消耗備品</td> <td>9,596</td> <td>6,800</td> <td>9,957</td> <td>3,157</td> <td>361</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						診療材料	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込	医療消耗備品	9,596	6,800	9,957	3,157	361		○医療消耗備品購買について																																	
診療材料	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込																																																
医療消耗備品	9,596	6,800	9,957	3,157	361																																																	
	<p>※医療消耗備品の主なもの</p> <p>鑷子・鉗子・剪刀・持針器・吸引管・開創器・耳鏡類等</p>						<p>医療消耗備品は総額的には、収支に大きな影響を及ぼすものではないが、鉗子などの鋼製小物類等の更新は、医療品質に関わるものであり、必要なものの更新は適切に行うものである。</p> <p>ただし、不急の購買については、極力避けるよう事務局・医師・手術室スタッフともコンセンサスを得る必要がある。</p>																																															

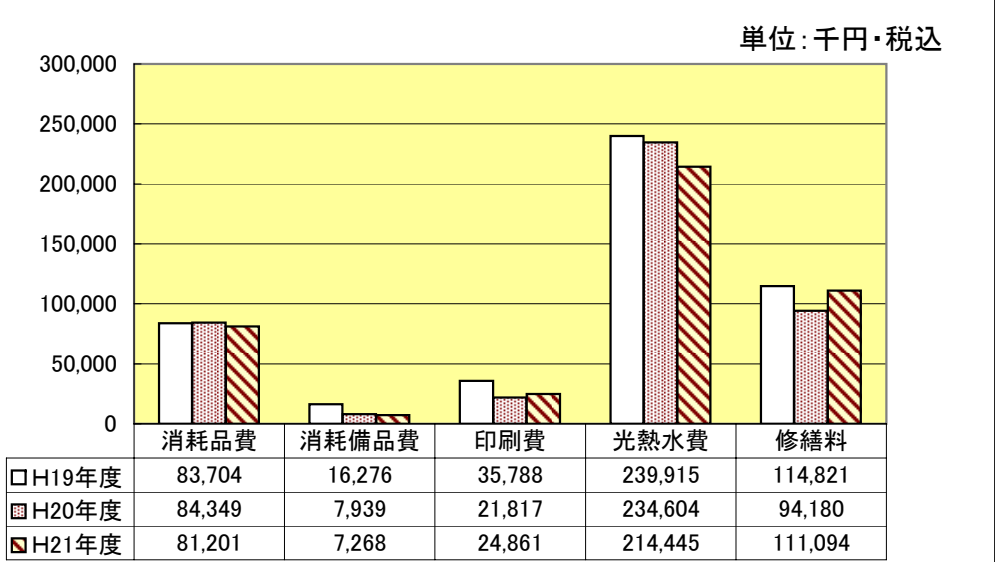
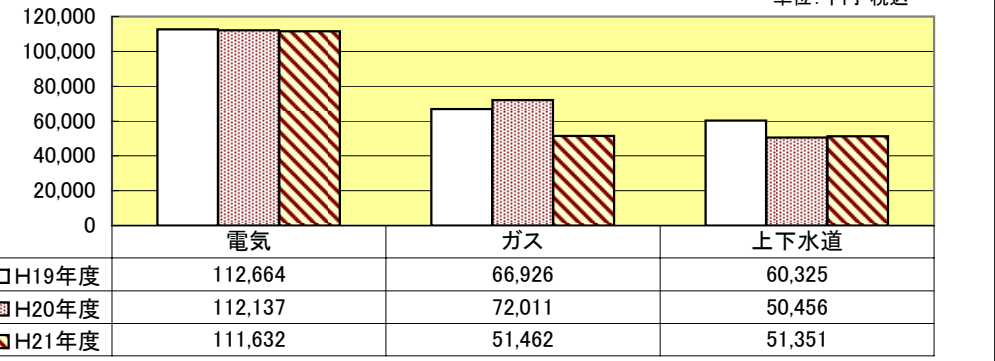
平成21年度経営改善計画個別評価表

実施目標	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ						備考																																																														
費用の効率化	委託料の見直し	<p>○委託料見直しへの取り組み</p> <p>委託料全般について、単価交渉、業務の見直しを実施し、委託料の削減に努力した。開発費その他委託については、電子カルテ化に伴う医事業務再編及び、DPCに対応した収益分析、予約センターなどの新規分野に対応したことにより、委託料全体で増減が発生したが、ほぼ計画額とした。</p> <p>◇人的委託について</p> <p>△ 医事会計については、電子カルテの稼働に伴い、業務の見直し再編を行い、効率化を図った。決算比較における実質比較では、約700万円程度の削減結果となった。</p> <p>△ 物品管理については、仕様の見直しとともに、プロポーザルを行い、委託料の削減を行った。材料調達と含めた方式は見送った。また、滅菌業務についても、交渉により、費用削減を行った。決算比較では、約800万円程度の削減結果となった。</p> <p>△ 廃棄物処理についても、単価交渉を行い、一定の単価削減を求めた。決算比較では、約500万円程度の削減結果となった。</p> <p>△ 寝具・白衣洗濯業務では、白衣については、取引業者を変更し単価見直しを行ったが、取り扱い件数との関係から、総額が伸びた。</p> <p>△ 看護補助業務についても、業務の必要性から、人員の確保との関係上、高くならざるを得なくなった。</p> <p>△ 院内保育所委託業務は、医療従事者福利厚生充実の一環として採用しているため、今後も拡大させてゆく。</p> <p>平成20年7月開始:定員15名 利用園児 5名 一時利用 1名 平成21年1月現在:定員45名 利用園児 19名 一時利用 2名</p> <p>◇機械保守等その他の委託料について</p> <p>△ 機械保守は、CT2台の更新と共に保守を打ち切ったが、前年度の生態モニターの更新に伴う保守料の増加などにより、計画値を超える結果となった。なお、医療機器保守料についてもコンサルタントを通じてベンチマークを行い低減に向けて粘り強く交渉を行っている。</p> <p>△ 電算システム保守については、院内情報システムの新旧の交替があったが、平成20年度に構築した電子カルテシステムを含む総合情報システムの規模が大きいため保守内容が変更されたため拡大した。</p> <p>△ 外注検査では、単価交渉により単価抑制を行った。ただし、検査件数の増加により、計画額を超える結果となった。</p> <p>△ 開発その他委託分については、予約センターの開始、がん登録作業の強化、収益力増強にかかる分析作業など新規分野に臨機に対応したことにより、増加した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>委託料内訳</th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> <th>単位:千円・税込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人的委託</td> <td>999,644</td> <td>1,030,452</td> <td>998,751</td> <td>△ 31,701</td> <td>△ 893</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機械保守委託</td> <td>115,331</td> <td>108,439</td> <td>113,530</td> <td>5,091</td> <td>△ 1,801</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電算システム保守委託</td> <td>39,238</td> <td>75,320</td> <td>73,786</td> <td>△ 1,534</td> <td>34,548</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外注検査等委託</td> <td>96,240</td> <td>100,017</td> <td>101,317</td> <td>1,300</td> <td>5,077</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施設設備委託</td> <td>42,316</td> <td>44,823</td> <td>42,976</td> <td>△ 1,847</td> <td>660</td> <td></td> </tr> <tr> <td>開発・その他委託</td> <td>139,321</td> <td>37,672</td> <td>72,365</td> <td>34,693</td> <td>△ 66,956</td> <td></td> </tr> <tr> <td>委託料計</td> <td>1,432,090</td> <td>1,396,723</td> <td>1,402,725</td> <td>6,002</td> <td>△ 29,365</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	委託料内訳	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込	人的委託	999,644	1,030,452	998,751	△ 31,701	△ 893		機械保守委託	115,331	108,439	113,530	5,091	△ 1,801		電算システム保守委託	39,238	75,320	73,786	△ 1,534	34,548		外注検査等委託	96,240	100,017	101,317	1,300	5,077		施設設備委託	42,316	44,823	42,976	△ 1,847	660		開発・その他委託	139,321	37,672	72,365	34,693	△ 66,956		委託料計	1,432,090	1,396,723	1,402,725	6,002	△ 29,365													
			委託料内訳	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込																																																														
			人的委託	999,644	1,030,452	998,751	△ 31,701	△ 893																																																															
			機械保守委託	115,331	108,439	113,530	5,091	△ 1,801																																																															
			電算システム保守委託	39,238	75,320	73,786	△ 1,534	34,548																																																															
			外注検査等委託	96,240	100,017	101,317	1,300	5,077																																																															
			施設設備委託	42,316	44,823	42,976	△ 1,847	660																																																															
			開発・その他委託	139,321	37,672	72,365	34,693	△ 66,956																																																															
			委託料計	1,432,090	1,396,723	1,402,725	6,002	△ 29,365																																																															
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>人的委託内容</th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> <th>単位:千円・税込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医事会計</td> <td>424,032</td> <td>433,416</td> <td>417,425</td> <td>△ 15,991</td> <td>△ 6,607</td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師事務作業補助</td> <td>8,568</td> <td>19,425</td> <td>14,273</td> <td>△ 5,152</td> <td>5,705</td> <td></td> </tr> <tr> <td>物品・滅菌・厨房</td> <td>181,604</td> <td>183,913</td> <td>173,699</td> <td>△ 10,214</td> <td>△ 7,905</td> <td></td> </tr> <tr> <td>清掃・警備・中央監視</td> <td>179,921</td> <td>179,552</td> <td>179,540</td> <td>△ 12</td> <td>△ 381</td> <td></td> </tr> <tr> <td>寝具・白衣洗濯</td> <td>95,121</td> <td>92,681</td> <td>95,006</td> <td>2,325</td> <td>△ 115</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護補助</td> <td>76,173</td> <td>75,651</td> <td>81,046</td> <td>5,395</td> <td>4,873</td> <td></td> </tr> <tr> <td>廃棄物処理</td> <td>23,629</td> <td>28,814</td> <td>18,246</td> <td>△ 10,568</td> <td>△ 5,383</td> <td></td> </tr> <tr> <td>院内保育所</td> <td>10,596</td> <td>17,000</td> <td>19,516</td> <td>2,516</td> <td>8,920</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人的委託小計</td> <td>999,644</td> <td>1,030,452</td> <td>998,751</td> <td>△ 31,701</td> <td>△ 893</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	人的委託内容	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込	医事会計	424,032	433,416	417,425	△ 15,991	△ 6,607		医師事務作業補助	8,568	19,425	14,273	△ 5,152	5,705		物品・滅菌・厨房	181,604	183,913	173,699	△ 10,214	△ 7,905		清掃・警備・中央監視	179,921	179,552	179,540	△ 12	△ 381		寝具・白衣洗濯	95,121	92,681	95,006	2,325	△ 115		看護補助	76,173	75,651	81,046	5,395	4,873		廃棄物処理	23,629	28,814	18,246	△ 10,568	△ 5,383		院内保育所	10,596	17,000	19,516	2,516	8,920		人的委託小計	999,644	1,030,452	998,751	△ 31,701
人的委託内容	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込																																																																	
医事会計	424,032	433,416	417,425	△ 15,991	△ 6,607																																																																		
医師事務作業補助	8,568	19,425	14,273	△ 5,152	5,705																																																																		
物品・滅菌・厨房	181,604	183,913	173,699	△ 10,214	△ 7,905																																																																		
清掃・警備・中央監視	179,921	179,552	179,540	△ 12	△ 381																																																																		
寝具・白衣洗濯	95,121	92,681	95,006	2,325	△ 115																																																																		
看護補助	76,173	75,651	81,046	5,395	4,873																																																																		
廃棄物処理	23,629	28,814	18,246	△ 10,568	△ 5,383																																																																		
院内保育所	10,596	17,000	19,516	2,516	8,920																																																																		
人的委託小計	999,644	1,030,452	998,751	△ 31,701	△ 893																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>開発・その他内容</th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> <th>単位:千円・税込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合情報システム開発</td> <td>60,867</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>△ 60,867</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電子カルテ導入支援</td> <td>56,163</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>△ 56,163</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予約センター</td> <td></td> <td></td> <td>8,238</td> <td>8,238</td> <td>8,238</td> <td></td> </tr> <tr> <td>がん登録作業</td> <td></td> <td></td> <td>9,450</td> <td>9,450</td> <td>9,450</td> <td></td> </tr> <tr> <td>収益分析</td> <td></td> <td></td> <td>4,987</td> <td>4,987</td> <td>4,987</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総合情報運用支援</td> <td></td> <td>30,000</td> <td>33,065</td> <td>3,065</td> <td>33,065</td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療機器接続費用</td> <td>22,291</td> <td>7,672</td> <td>16,625</td> <td>8,953</td> <td>△ 5,666</td> <td></td> </tr> <tr> <td>開発・その他小計</td> <td>139,321</td> <td>37,672</td> <td>72,365</td> <td>34,693</td> <td>△ 66,956</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	開発・その他内容	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込	総合情報システム開発	60,867			0	△ 60,867		電子カルテ導入支援	56,163			0	△ 56,163		予約センター			8,238	8,238	8,238		がん登録作業			9,450	9,450	9,450		収益分析			4,987	4,987	4,987		総合情報運用支援		30,000	33,065	3,065	33,065		医療機器接続費用	22,291	7,672	16,625	8,953	△ 5,666		開発・その他小計	139,321	37,672	72,365	34,693	△ 66,956									
開発・その他内容	平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位:千円・税込																																																																	
総合情報システム開発	60,867			0	△ 60,867																																																																		
電子カルテ導入支援	56,163			0	△ 56,163																																																																		
予約センター			8,238	8,238	8,238																																																																		
がん登録作業			9,450	9,450	9,450																																																																		
収益分析			4,987	4,987	4,987																																																																		
総合情報運用支援		30,000	33,065	3,065	33,065																																																																		
医療機器接続費用	22,291	7,672	16,625	8,953	△ 5,666																																																																		
開発・その他小計	139,321	37,672	72,365	34,693	△ 66,956																																																																		
<p>人的委託の内訳の推移 単位:千円</p>																																																																							

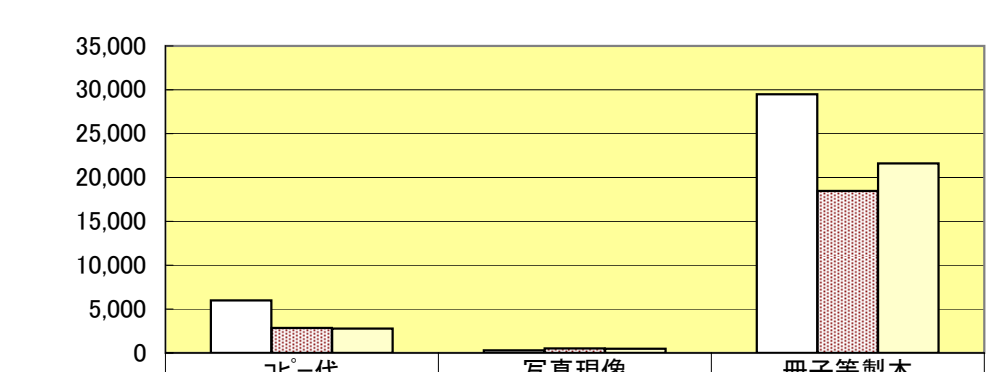
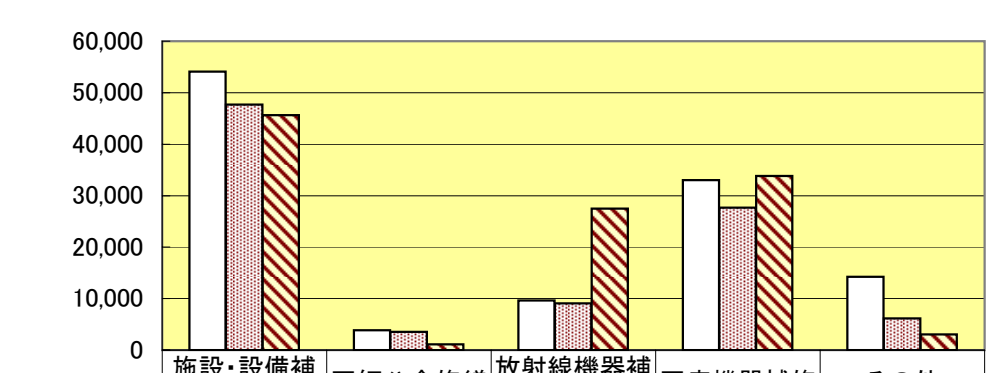
平成21年度経営改善計画個別評価表

実施目標	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ						備考																																																															
費用の効率化	賃借料の見直し	○賃借料の見直しに係る取り組みについて	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> <th>単位：千円・税込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT管球リース</td> <td>38,849</td> <td>20,000</td> <td>14,016</td> <td>△ 5,984</td> <td>△ 24,833</td> <td></td> </tr> <tr> <td>旧システムリース</td> <td>11,970</td> <td>304</td> <td>0</td> <td>△ 304</td> <td>△ 11,970</td> <td></td> </tr> <tr> <td>減少分計</td> <td>50,819</td> <td>20,304</td> <td>14,016</td> <td>△ 6,288</td> <td>△ 36,803</td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療機器リース</td> <td>207</td> <td>55,786</td> <td>44,137</td> <td>△ 11,649</td> <td>43,930</td> <td></td> </tr> <tr> <td>酸素濃縮機等</td> <td>64,990</td> <td>66,061</td> <td>71,942</td> <td>5,881</td> <td>6,952</td> <td></td> </tr> <tr> <td>増加分計</td> <td>65,197</td> <td>121,847</td> <td>116,079</td> <td>△ 5,768</td> <td>50,882</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>43,319</td> <td>46,051</td> <td>51,593</td> <td>5,542</td> <td>8,274</td> <td></td> </tr> <tr> <td>賃借料計</td> <td>159,335</td> <td>188,202</td> <td>181,688</td> <td>△ 6,514</td> <td>22,353</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位：千円・税込	CT管球リース	38,849	20,000	14,016	△ 5,984	△ 24,833		旧システムリース	11,970	304	0	△ 304	△ 11,970		減少分計	50,819	20,304	14,016	△ 6,288	△ 36,803		医療機器リース	207	55,786	44,137	△ 11,649	43,930		酸素濃縮機等	64,990	66,061	71,942	5,881	6,952		増加分計	65,197	121,847	116,079	△ 5,768	50,882		その他	43,319	46,051	51,593	5,542	8,274		賃借料計	159,335	188,202	181,688	△ 6,514	22,353		
			平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	単位：千円・税込																																																																
		CT管球リース	38,849	20,000	14,016	△ 5,984	△ 24,833																																																																	
		旧システムリース	11,970	304	0	△ 304	△ 11,970																																																																	
		減少分計	50,819	20,304	14,016	△ 6,288	△ 36,803																																																																	
		医療機器リース	207	55,786	44,137	△ 11,649	43,930																																																																	
		酸素濃縮機等	64,990	66,061	71,942	5,881	6,952																																																																	
		増加分計	65,197	121,847	116,079	△ 5,768	50,882																																																																	
		その他	43,319	46,051	51,593	5,542	8,274																																																																	
		賃借料計	159,335	188,202	181,688	△ 6,514	22,353																																																																	
◇個別科目の状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>賃借料内訳</th> <th>平成19年度実績</th> <th>平成20年度実績</th> <th>平成21年度見込</th> <th>単位：千円・税込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>酸素濃縮器等</td> <td>62,073</td> <td>64,990</td> <td>71,942</td> <td></td> </tr> <tr> <td>CT管球</td> <td>24,322</td> <td>38,849</td> <td>14,016</td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療機器リース</td> <td>0</td> <td>207</td> <td>44,137</td> <td></td> </tr> <tr> <td>システムリース</td> <td>24,214</td> <td>12,259</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土地・医師公舎等</td> <td>36,350</td> <td>33,758</td> <td>38,097</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8,912</td> <td>9,272</td> <td>13,496</td> <td></td> </tr> <tr> <td>賃借料計</td> <td>155,871</td> <td>159,335</td> <td>181,688</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						賃借料内訳	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度見込	単位：千円・税込	酸素濃縮器等	62,073	64,990	71,942		CT管球	24,322	38,849	14,016		医療機器リース	0	207	44,137		システムリース	24,214	12,259	0		土地・医師公舎等	36,350	33,758	38,097		その他	8,912	9,272	13,496		賃借料計	155,871	159,335	181,688																											
賃借料内訳	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度見込	単位：千円・税込																																																																				
酸素濃縮器等	62,073	64,990	71,942																																																																					
CT管球	24,322	38,849	14,016																																																																					
医療機器リース	0	207	44,137																																																																					
システムリース	24,214	12,259	0																																																																					
土地・医師公舎等	36,350	33,758	38,097																																																																					
その他	8,912	9,272	13,496																																																																					
賃借料計	155,871	159,335	181,688																																																																					
△ 酸素濃縮器・人工呼吸器・その他機器賃借料は、在宅酸素療法、持続陽圧式人工呼吸器などの賃借料であり、在宅医療の充実という厚生労働省の方針もあり、件数については、年々増加傾向である。今年度については、件数増加との関係で、大口の取引業者との単価交渉により、一定の単価カットを行った。ただし、総額は伸びる結果となった。	<p>酸素指導管理料算定件数 1月累計値比較 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>算定件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>912</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>903</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>972</td> </tr> </tbody> </table>						年度	算定件数	H19	912	H20	903	H21	972																																																										
年度	算定件数																																																																							
H19	912																																																																							
H20	903																																																																							
H21	972																																																																							
△ 医療機器リース料については、資産購入予定外に突発的、緊急的に購入に替えて対応したものであり、人工心肺装置、放射線画像送受信システムなどである。	<p>Legend: □ H19年度, ■ H20年度, ▨ H21年度</p>																																																																							
△ システムリース料の主なものは、旧オーダーリングシステムのシステム賃借料であり、これは、平成20年度に構築した総合情報システム(電子カルテ等)による資産購入と置き換わるため、平成21年度から皆減する。																																																																								
△ 減容炉は、院内のプラスチック容廃棄物の処分容量を減量し、以って処分費用の低減を目的とし、平成18年度から平成24年度まで債務負担行為により導入を行ったものである。																																																																								
△ 医師マンション借料は、医師公舎から溢れた常勤医師等について賃貸マンションを借り上げているものであり、確保医師の増加に伴い、年々微増している。																																																																								
△ 土地等借料は、病院駐車場敷地分であり、今般の看護師の増加に伴い、新たに駐車場土地を賃借したため土地借料は21年度から増加した。																																																																								
△ その他借料では、院内保育所建物借料が施設規模の大きな建物へ変更したため増額している。																																																																								

平成21年度経営改善計画個別評価表

実施目標	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ	備考																																																
費用の効率化	その他経費の見直し	<p>○内部管理経費の見直しについて</p> <p>病院運営として、診療・患者サービスに直結する部分以外の内部管理に対する経費について、経営改善の一環として、圧縮するよう実施するものであるが、印刷製本費などは、カルテの電子化などにより、当然に削減をおこなった。</p> <p>光熱水費については、ESCO事業を活用し、院内電気設備等の熱効率の良い設備に交換しつつ、従来までかかっていた光熱水費の無駄を削減している。</p>	<p>実績見込み比較</p> <table border="1" data-bbox="1032 254 1676 422"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度実績</th> <th>決算見込</th> <th>実績・決見比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消耗品費</td> <td>84,349</td> <td>81,201</td> <td>△ 3,148</td> </tr> <tr> <td>消耗備品費</td> <td>7,939</td> <td>7,268</td> <td>△ 671</td> </tr> <tr> <td>印刷費</td> <td>21,817</td> <td>24,861</td> <td>3,044</td> </tr> <tr> <td>光熱水費</td> <td>234,604</td> <td>214,445</td> <td>△ 20,159</td> </tr> <tr> <td>修繕費</td> <td>94,180</td> <td>111,094</td> <td>16,914</td> </tr> </tbody> </table> <p>※特定勘定科目の内訳</p>  <table border="1" data-bbox="1053 936 1881 1031"> <thead> <tr> <th></th> <th>消耗品費</th> <th>消耗備品費</th> <th>印刷費</th> <th>光熱水費</th> <th>修繕料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ H19年度</td> <td>83,704</td> <td>16,276</td> <td>35,788</td> <td>239,915</td> <td>114,821</td> </tr> <tr> <td>■ H20年度</td> <td>84,349</td> <td>7,939</td> <td>21,817</td> <td>234,604</td> <td>94,180</td> </tr> <tr> <td>▨ H21年度</td> <td>81,201</td> <td>7,268</td> <td>24,861</td> <td>214,445</td> <td>111,094</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度実績	決算見込	実績・決見比較	消耗品費	84,349	81,201	△ 3,148	消耗備品費	7,939	7,268	△ 671	印刷費	21,817	24,861	3,044	光熱水費	234,604	214,445	△ 20,159	修繕費	94,180	111,094	16,914		消耗品費	消耗備品費	印刷費	光熱水費	修繕料	□ H19年度	83,704	16,276	35,788	239,915	114,821	■ H20年度	84,349	7,939	21,817	234,604	94,180	▨ H21年度	81,201	7,268	24,861	214,445	111,094	<p>○事務用品類の今後の課題</p> <p>事務用品等については、収支には大きな影響を及ぼすものではないが、効率的な使用を心がけるよう院内啓発及び物品の規格統一の再徹底などに向けた課題が残っている。</p> <p>○消耗品費について</p> <p>消耗品費は、患者用病歴ホルダー、端末用インクトナー、薬袋、注射箋、ペーパータオル、洗浄液、洗濯剤などが主であり、また医療機器や院内の各システムに付随した純正品での購買が金額の多数を占めている。</p> <p>事務・業務管理用物品については、簡素なものに変更してゆくなどコストカット部分を見つけ出し切り詰めてゆくことが課題である。</p> <p>○備品について</p> <p>病棟、外来での備品として、テレビや扇風機、冷蔵庫、外来での身長体重計、使用した滅菌物の一次洗浄に使う食器洗浄機など、その他院内保育所で使用する保育備品などが購買の大半である。</p> <p>また、過年度においては、院内総合情報システム構築に伴う電子カルテに接続するPCを載せるワゴン、情報端末であるPDA装置など各病棟配置したため支出が増加した。平成19年度で高くなっているのはそのためである。</p>
		平成20年度実績	決算見込	実績・決見比較																																																
消耗品費	84,349	81,201	△ 3,148																																																	
消耗備品費	7,939	7,268	△ 671																																																	
印刷費	21,817	24,861	3,044																																																	
光熱水費	234,604	214,445	△ 20,159																																																	
修繕費	94,180	111,094	16,914																																																	
	消耗品費	消耗備品費	印刷費	光熱水費	修繕料																																															
□ H19年度	83,704	16,276	35,788	239,915	114,821																																															
■ H20年度	84,349	7,939	21,817	234,604	94,180																																															
▨ H21年度	81,201	7,268	24,861	214,445	111,094																																															
		<p>◇光熱水費の削減について</p> <p>病院・医師公舎の電気・ガス・上下水道料金であり、平成19年導入のESCO事業により、主に院内の熱効率の最適化を分析し、院内設備の更新と共に、電力購買、ガス低減の方針により、全体のCO2の削減を図りつつ、費用総額の低減を実現した。熱効率の良い空調等設備への転換と電気・ガスの使用方法により、低減している。</p> <p>また、院内コスト削減部会などを通じて、医局・図書室の意識的に消灯や、2フロアまでの移動は階段を利用するなどの意識啓発を励行を継続している。</p>	 <table border="1" data-bbox="1053 1707 1923 1801"> <thead> <tr> <th></th> <th>電気</th> <th>ガス</th> <th>上下水道</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ H19年度</td> <td>112,664</td> <td>66,926</td> <td>60,325</td> </tr> <tr> <td>■ H20年度</td> <td>112,137</td> <td>72,011</td> <td>50,456</td> </tr> <tr> <td>▨ H21年度</td> <td>111,632</td> <td>51,462</td> <td>51,351</td> </tr> </tbody> </table>		電気	ガス	上下水道	□ H19年度	112,664	66,926	60,325	■ H20年度	112,137	72,011	50,456	▨ H21年度	111,632	51,462	51,351																																	
	電気	ガス	上下水道																																																	
□ H19年度	112,664	66,926	60,325																																																	
■ H20年度	112,137	72,011	50,456																																																	
▨ H21年度	111,632	51,462	51,351																																																	

平成21年度経営改善計画個別評価表

実施目標	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ	備考																							
費用の効率化 その他経費の見直し	○印刷製本費について	コピー代については、平成20年度に院内コピー機リース契約時に単価見直しを行ったため、低減している。	<p>○印刷製本費の内訳</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>コピー代</th> <th>写真現像</th> <th>冊子等製本</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ H19年度</td> <td>5,996</td> <td>289</td> <td>29,503</td> </tr> <tr> <td>■ H20年度</td> <td>2,859</td> <td>500</td> <td>18,458</td> </tr> <tr> <td>□ H21年度</td> <td>2,781</td> <td>482</td> <td>21,598</td> </tr> </tbody> </table>		コピー代	写真現像	冊子等製本	□ H19年度	5,996	289	29,503	■ H20年度	2,859	500	18,458	□ H21年度	2,781	482	21,598	<p>○印刷製本費について</p> <p>冊子製本類については、入院申込書、手術等の患者説明書、注射等予約箋、監査処方箋、栄養指導説明書、レント、ゲン袋等、業務上当然発生する印刷物が主である。</p> <p>そのほか、今年度は、がん医療に対する冊子、ポスターなどの作成を積極的におこなったことから、増加しているものである。</p>							
		コピー代	写真現像	冊子等製本																							
□ H19年度	5,996	289	29,503																								
■ H20年度	2,859	500	18,458																								
□ H21年度	2,781	482	21,598																								
○修繕料の内訳	施設修繕については、不急な修繕を控えるようにした。	<p>○修繕料の内訳</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>施設・設備補修</th> <th>医師公舎修繕</th> <th>放射線機器補修</th> <th>医療機器補修</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ H19年度</td> <td>54,082</td> <td>3,843</td> <td>9,632</td> <td>33,025</td> <td>14,239</td> </tr> <tr> <td>■ H20年度</td> <td>47,678</td> <td>3,571</td> <td>9,105</td> <td>27,696</td> <td>6,130</td> </tr> <tr> <td>■ H21年度</td> <td>45,628</td> <td>1,092</td> <td>27,500</td> <td>33,806</td> <td>3,068</td> </tr> </tbody> </table>		施設・設備補修	医師公舎修繕	放射線機器補修	医療機器補修	その他	□ H19年度	54,082	3,843	9,632	33,025	14,239	■ H20年度	47,678	3,571	9,105	27,696	6,130	■ H21年度	45,628	1,092	27,500	33,806	3,068	<p>○修繕の動向について</p> <p>築後、14年を迎える施設のため、医療機器の更新とともに施設・設備のメンテナンスが課題となっている。</p> <p>単なるカットではなく、診療の質、患者サービスの向上などの諸課題に対して、適切に対応しなければならないと考えており、現状では、不急の修繕を控えるよう注意している。</p> <p>なお、今年度放射線機器補修が伸びているのは、11月に放射線治療器が故障しその修繕を行ったためである。今後、放射線治療器の更新は、大きな投資額となるため喫緊の課題となっている。</p>
	施設・設備補修	医師公舎修繕	放射線機器補修	医療機器補修	その他																						
□ H19年度	54,082	3,843	9,632	33,025	14,239																						
■ H20年度	47,678	3,571	9,105	27,696	6,130																						
■ H21年度	45,628	1,092	27,500	33,806	3,068																						

平成21年度経営改善計画個別評価表

実施目標	実施項目	取り組み内容	実績及びデータ						備考																													
医療水準の維持と向上	計画的投資	<p>○投資的経費の支出について</p> <p>施設建設及び医療機器購入について、病院の安定的運営と医療水準の維持向上を勘案しながら、毎年度計画的に更新をしているところであり、平成21年度は、今後の医療動向を勘案し、CT 2台の更新を行った。</p> <p>支出については、計画の範囲内となっている。</p>	○投資的経費支出と起債収入の推移						<p>○投資の動向</p> <p>急性期医療の展開、がん医療、救急への対応、高度特殊医療の維持向上の行政目的に沿いながら、今後も更新を進めてゆくものである。</p> <p>現在、放射線治療器の更新について、がん医療のソフト面、ハード面の充実に対する目標の達成に向けて、いかに経営上安定的に更新できるかが課題となっている。</p>																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度実績</th> <th>プラン計画額</th> <th>決算見込</th> <th>計画差</th> <th>実績・決見比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業債</td> <td>310,000</td> <td>277,000</td> <td>269,800</td> <td>△ 7,200</td> <td>△ 40,200</td> </tr> <tr> <td>府補助金</td> <td></td> <td></td> <td>11,463</td> <td>11,463</td> <td>11,463</td> </tr> <tr> <td>固定資産売却代金等</td> <td>2,703</td> <td>1,000</td> <td>423</td> <td>△ 577</td> <td>△ 2,280</td> </tr> <tr> <td>収入計</td> <td>312,703</td> <td>278,000</td> <td>281,686</td> <td>3,686</td> <td>△ 31,017</td> </tr> </tbody> </table>								平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較	企業債	310,000	277,000	269,800	△ 7,200	△ 40,200	府補助金			11,463	11,463	11,463	固定資産売却代金等	2,703	1,000	423	△ 577	△ 2,280	収入計	312,703	278,000	281,686	3,686	△ 31,017
			平成20年度実績	プラン計画額	決算見込	計画差	実績・決見比較																															
		企業債	310,000	277,000	269,800	△ 7,200	△ 40,200																															
		府補助金			11,463	11,463	11,463																															
		固定資産売却代金等	2,703	1,000	423	△ 577	△ 2,280																															
		収入計	312,703	278,000	281,686	3,686	△ 31,017																															
		<table border="1"> <tbody> <tr> <td>医療機器購入等</td> <td>364,026</td> <td>287,500</td> <td>286,645</td> <td>△ 855</td> <td>△ 77,381</td> </tr> <tr> <td>住宅保証金</td> <td>1,150</td> <td>3,500</td> <td>1,330</td> <td>△ 2,170</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>企業債元金償還金</td> <td>969,586</td> <td>1,008,407</td> <td>1,008,406</td> <td>△ 1</td> <td>38,820</td> </tr> <tr> <td>支出計</td> <td>1,334,762</td> <td>1,299,407</td> <td>1,296,381</td> <td>△ 3,026</td> <td>△ 38,381</td> </tr> </tbody> </table>						医療機器購入等		364,026	287,500	286,645	△ 855	△ 77,381	住宅保証金	1,150	3,500	1,330	△ 2,170	180	企業債元金償還金	969,586	1,008,407	1,008,406	△ 1	38,820	支出計	1,334,762	1,299,407	1,296,381	△ 3,026	△ 38,381						
		医療機器購入等	364,026	287,500	286,645	△ 855	△ 77,381																															
		住宅保証金	1,150	3,500	1,330	△ 2,170	180																															
企業債元金償還金	969,586	1,008,407	1,008,406	△ 1	38,820																																	
支出計	1,334,762	1,299,407	1,296,381	△ 3,026	△ 38,381																																	
<p>資産購入と企業債等収入</p> <p>単位：千円・税込</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ 資産購入費</td> <td>229,862</td> <td>577,149</td> <td>364,026</td> <td>286,645</td> </tr> <tr> <td>■ 企業債収入</td> <td>158,000</td> <td>525,159</td> <td>312,703</td> <td>281,686</td> </tr> </tbody> </table>							H18	H19	H20	H21	□ 資産購入費	229,862	577,149	364,026	286,645	■ 企業債収入	158,000	525,159	312,703	281,686																		
	H18	H19	H20	H21																																		
□ 資産購入費	229,862	577,149	364,026	286,645																																		
■ 企業債収入	158,000	525,159	312,703	281,686																																		
<p>主な購入医療機器</p>																																						
<p>○平成18年度 歯科診療用チェアユニット、耳鼻咽喉科用手術顕微鏡等</p>																																						
<p>○平成19年度 エコー画像ファイリングシステム、人工呼吸器、肺機能検査システム等 病院総合情報システム</p>																																						
<p>○平成20年度 超音波診断装置消化器科用等、心外人工心肺関連機器</p>																																						
<p>○平成21年度 CT装置更新</p>																																						

(別紙1)

団体名 (病院名)	大阪府 岸和田市 (市立岸和田市民病院)
--------------	-------------------------

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位:百万円、%)

区分		年度					
		19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(計画)	21年度(見込)	22年度	23年度
収	1. 医業収益 a	9,637	9,480	10,106	10,290	10,572	11,092
	(1) 料金収入	9,104	8,857	9,441	9,649	9,905	10,413
	(2) その他	533	623	665	641	667	679
	うち他会計負担金	340	438	463	472	466	466
	2. 医業外収益	1,586	1,527	1,339	1,406	1,335	1,335
	(1) 他会計負担金・補助金	1,360	1,262	1,137	1,128	1,134	1,134
	(2) 国(県)補助金	32	35	27	43	27	27
	(3) その他	194	230	175	235	174	174
	経常収益(A)	11,223	11,007	11,445	11,696	11,907	12,427
	入	1. 医業費用 b	10,484	10,412	10,779	10,828	10,860
(1) 職員給与費 c		4,582	4,594	4,843	4,744	4,981	5,114
(2) 材料費		2,762	2,673	2,850	3,024	2,915	3,036
(3) 経費		2,036	2,062	2,062	2,037	2,006	2,007
(4) 減価償却費		1,057	1,030	975	972	909	873
(5) その他		47	53	49	51	49	49
2. 医業外費用		934	913	895	930	872	845
(1) 支払利息		633	619	610	598	586	557
(2) その他		301	294	285	332	286	288
経常費用(B)		11,418	11,325	11,674	11,758	11,732	11,924
経常損益(A)-(B)(C)	△ 195	△ 318	△ 229	△ 62	175	503	
特別損益	1. 特別利益(D)	29	82	10	11	10	10
	2. 特別損失(E)	43	12	10	3	10	10
	特別損益(D)-(E)(F)	△ 14	70	0	8	0	0
純損益(C)+(F)	△ 209	△ 248	△ 229	△ 54	175	503	
累積欠損金(G)	△ 4,567	△ 4,815	△ 5,044	△ 4,869	△ 4,869	△ 4,366	
不良債務	流動資産(ア)	2,067	2,139	1,933	2,218	2,092	2,236
	流動負債(イ)	1,095	1,373	1,612	1,517	1,772	1,685
	うち一時借入金	300	500	900	600	1,000	900
	翌年度繰越財源(ウ)	0	0	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額(エ)	0	0	0	0	0	0
	不良債務(オ) 差引{(イ)-(エ)}-{(ア)-(ウ)}	△ 972	△ 766	△ 321	△ 701	△ 320	△ 551
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	98.3%	97.2%	98.0%	99.5%	101.5%	104.2%	
不良債務比率 $\frac{(I)}{a} \times 100$	-10.1%	-8.1%	-3.2%	-6.8%	-3.0%	-5.0%	
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	91.9%	91.0%	93.8%	95.0%	97.3%	100.1%	
職員給与費対医業収益比率 $\frac{(c)}{(a)} \times 100$	47.6%	48.5%	47.9%	46.1%	47.1%	46.1%	
地方財政法施行令第19条第1項 により算定した資金の不足額(H)	-	-	-	-	-	-	
資金不足比率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	-10.1%	-8.1%	-3.2%	-6.8%	-3.0%	-5.0%	
病床利用率	86.2%	84.4%	87.5%	81.0%	85.5%	91.5%	

団体名 (病院名)	大阪府 岸和田市 (市立岸和田市民病院)
--------------	-------------------------

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

区分		年度					
		19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(計画)	21年度(見込)	22年度	23年度
収 入	1. 企業債	525	310	277	270	272	350
	2. 他会計出資金						
	3. 他会計負担金						
	4. 他会計借入金						
	5. 他会計補助金						
	6. 国(県)補助金				11		
	7. その他	40	3	1	1	1	1
	収入計(a)	565	313	278	282	273	351
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額(b)						
	前年度許可債で当年度借入分(c)						
純計(a)-[(b)+(c)](A)	565	313	278	282	273	351	
支 出	1. 建設改良費	579	348	291	275	281	359
	2. 企業債償還金	1,059	970	1,008	1,008	1,108	1,165
	3. 他会計長期借入金返還金						
	4. その他						
	支出計(B)	1,638	1,318	1,299	1,283	1,389	1,524
差引不足額(B)-(A)(C)		1,073	1,005	1,021	1,001	1,116	1,173
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	1,072	1,004	1,020	1,000	1,115	1,172
	2. 利益剰余金処分額						
	3. 繰越工事資金						
	4. その他	1	1	1	1	1	1
	計(D)	1,073	1,005	1,021	1,001	1,116	1,173
補てん財源不足額(C)-(D)(E)		0	0	0	0	0	0
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額(F)							
実質財源不足額(E)-(F)		0	0	0	0	0	0

- 複数の病院を有する事業にあっては、合計表のほか、別途、病院ごとの計画を作成すること。
- 金額の単位は適宜変更することも可能。(例)千円単位。

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:千円)

	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度	21年度	22年度	23年度
収益的収支	()	()	()	()	()	()
	1,700,000	1,700,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000
資本的収支	()	()	()	()	()	()
合計	()	()	()	()	()	()
	1,700,000	1,700,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000

(注)

- ()内はうち基準外繰入金額を記入すること。
- 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰入金について」(総務省自治財政局長通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。